

『人民文学』総目次

鳥羽耕史

はじめに

『人民文学』とは、一九五〇年一月のコミンフォルム批判によつて主流派と国際派の二つに分裂した日本共産党の動きに呼応するように、『新日本文学』を発行していた新日本文学会から離脱した江馬修や藤森成吉らによつて、同年一月に創刊された雑誌である。大ざっぱに言えば国際派寄りのメンバーの多かった新日本文学会に対して、主流派寄りのメンバーを集めてスタートしており、一九五一年一月の宮本百合子の死の直後から故人を批判するキャンペーンを行ったことで悪名高い雑誌であるが、一方では各地の文学サークルとの交流を推進する方針もあつて、労働者作家をはじめとする様々な執筆者を擁していた。一九五三年一二月に通巻三六号を出した後、翌年一月には『文学の友』と改題して通巻三七号を出し、以後一九五五年二月までに通巻五〇号と別冊第三集までを刊行した。同年の一月から新日本文学会と合流する形で『生活と文学』を創刊し、一九五七年三月までに三卷三

号、一七冊を出して終刊し、新日本文学会への一本化が完了する形となつた。

一九五〇年代前半の日本共産党の分派闘争や極左冒険主義と、一九五五年七月の六全協による自己批判と党の統一への流れと軌を一にするような、混乱期の所産ともいえる雑誌ではあるが、一方の『新日本文学』に復刻縮刷版（第三書館一九九三年五月）があり、総目次（『新日本文学』一九七六年六月号、および縮刷版の索引）があるのに対し、『人民文学』の全貌は未だ明らかになっていない。戦後、一九四九年までの雑誌記事は占領期雑誌記事情報データベース（<http://www.prangodb.jp/>）によつてかなり詳細につかめるようになってきたが、一九五〇年に創刊された『人民文学』はこの対象からも外れている。この目次は、そうした空白を埋め、この時期の文学・政治について研究するための手段の一つとして構想されたものである。

雑誌の概要

記事の内容やサークル運動との関係、雑誌の性格などの詳細については別稿を期す。ここでは雑誌の発行所・印刷所や価格などの点についてのみ解説しておく。「編集兼発行人 柴崎公三郎」、「発行所 人民文学社」は創刊から終刊まで変わっていない。人民文学社の所在地は千代田区富士見町一の一〇だったのが、二巻九号から千代田区飯田町二ノ一に移転する。

三巻十号から発売所として合同出版社（千代田区神田小川町一の一）が加わり、翌十一号からは飯田町の人民文学社を本社とし、大阪支社として大阪市北区梅田町二二の住所が加わる。四巻五号からは大阪支社を関西支社と変更、京都支社として京都市左京区吉田二本松三十の住所が加わっている。

印刷所は創刊号のみ山中印刷株式会社（新宿区山吹町五〇番地）、一巻二号から二巻三号までは人民文学印刷部（住所表記なし）、二巻四号から八号まで草原社（台東区浅草馬道二ノ十一）、二巻九号より人民文学印刷部に戻って三巻十号まで同じ、三巻十一号から四巻一号まで台東印刷株式会社（住所表記なし）、四巻二号から十一号まで鎌倉印刷株式会社（住所表記なし）となっている。本文の印刷は目次やグラビアに一色使っている以外は全てモノクロ、表紙は三巻九号まで二色刷りであるが、三巻十号からはカラー印刷となっている。

雑誌の判型はA5判、創刊時は64頁・五十円（送料六円）

だったのが一巻二号で72頁、二巻一号で96頁・六十五円（送料六円）となり、二巻三号からは頁数・価格は同じまま送料が三円に下がっている。これは二巻七号より「昭和二十五年十二月二十五日第三種郵便物認可」の表記が加わったのと対応しているであろう。また、三巻十四号より「昭和二十六年十二月十七日国鉄特別扱承認雑誌第二一六六号」の表記も加わっている。二巻十号から112頁・七十円（送料三円）となり、次号から同じ頁数で八十円（送料八円）、三巻五号から同価格で128頁になり（六号のみ132頁）、三巻十一号から180頁台で一〇〇円（この号のみ送料一二円、後は八円）となる。四巻四号の附録付190頁をピークとして、八号までは182頁を保つが、九・十号は150頁、十一号は148頁となって終刊した。この間、何度もカンパの募集などが掲載されており、経済的にかなり困難のあったことが想像される。そのためか後継誌の『文学の友』は96頁・六〇円でスタートし、64頁・五〇円で終刊するまで、174〜222頁の別冊以外に増頁した号はない。

凡例

・本目次は、『人民文学』一巻一号から四巻十一号（通巻三十六号）までの目次を、発行順に掲載したものである。

・三巻一号は号数部分が通巻表記で三巻十四号と表記され、三巻十五号の後は三巻三号（通巻十六号）と併記される形になるが、全てそのままの形で掲げた。

- ・表示項目は、上から著者名、タイトル、開始頁、終了頁となっている。別の頁に飛んで終了する記事の場合、読点に続けてもう一つの頁数を載せてある。

- ・表紙の画家名、頁数を明示していないカットの画家名がある場合は各号の冒頭に掲げた。

- ・投げ込みがある場合は画家名の次に掲げ、頁数の段に（投げ込み）と注記した。ただし、全て筆者の架蔵書による調査のため、未知の投げ込みがある可能性も高い。ここに挙げられていない投げ込みなどの付き物をご存知の方にはご教示頂きたい。

- ・頁数のカウント方法は五回変更されている。創刊から二巻九号までは表紙の後すぐ1頁がはじまるが、二巻十号からはさらに目次が終ってから1頁が始まるようになるため、そこから遡って0、-1、-2という頁数を便宜的に付けた。三巻六号で最初の方法に戻るが、翌号から二巻十号と同じ方式になり、三巻十一号でまた最初の方法に戻る。四巻一号からは表紙が1頁というカウント方法に変わるため、広告だけの2、3頁などは目次に入っていない。

- ・検索の便宜を図るため、末尾に人名・団体名索引を付した。外国人名も姓の五十音順で並べたため、例えばルイ・アラゴンは「ル」ではなく「ア」の位置にある。ハイフンの前が巻、後が号による巻号表記である。ただし、人民文学社や編集部によるもの、無署名のものなどは膨大になるため省略した。

- ・誌面の都合上、短歌・俳句・川柳や、投書欄の個々の著者名は省略した。なお、近日中に開設予定のホームページでは、これらも入力した詳細版のデータベースを公開する予定である。また、今後は後継誌である『文学の友』および『生活と文学』も引き続き調査し、総目次を公開する計画である。

- ・本稿は科学研究費補助金（若手研究（B））課題番号15720037による成果の一部である。

一卷一号、表紙「11月創刊号」本文64頁

昭和二十五年十一月一日発行、定価五十円（送料六円）

表紙「解放された父ちゃん」

吉井忠、佐藤忠良 カット

無署名 目次

山本又男 霜で白い道

タカラ・テル 人民に仕える文学—『シアチウ物語』をよ

んで—

サカイ・トクゾー 平和と米と自由を

豊田正子 真夜中の爆音

高橋暁樹 青いからしな

栗栖継 訳 スケッチは大きな文学である—ソヴェト「文学新

聞」七月二十五日号より—

無署名 スケッチについて

マフムド・マカル、栗栖継 訳 私たちの村

栗栖継 訳 「私たちの村」と作者

人民文学社 作品募集

島田政雄 人民作家のおもかげ（I）中国 趙樹理（チャオ

シュリー）

ロマン・キム 国際文学通信 朝鮮 地下から出た文学—朝

鮮の進歩的文学運動—

無署名 国際文学通信 ソ・同盟 ソ同盟の作家から朝鮮の

作家たちへ

無署名 国際文学通信 ドイツ ドイツ作家同盟の誕生

無署名 国際文学通信 アメリカ アメリカの大詩人

無署名 国際文学通信 ティンリン 玲と文芸報

藤森成吉 文学者と平和を守る運動

人民文学編集部 読者諸君に訴える—「人民文学友の会」の

設立について—

赤木健介 詩人の性格—「ひろし・ぬやま詩集」を読む—

江馬修 長次郎の妻

江馬生 後記

江馬修 長次郎の妻

江馬生 後記

江馬修 長次郎の妻

江馬生 後記

昭和二十五年十二月一日発行、定価五十円（送料六円）

新居廣治 表紙

吉井忠、佐藤忠良、吉岡憲、佐伯良夫 カット

無署名 目次

田中政雄 アメリカシロヒトリ

江馬なかし 芸術より政治が優位ということ

マフムト・マカル、栗栖継 訳 私たちの村（つづき）

人民文学編集部 読者諸君に訴える—「人民文学友の会」の

設立について—

増山太助 サークル活動における普及と達成の統一

増山太助 サークル活動における普及と達成の統一

鹿地亘 病床日記―清瀬病院にて―	38	二巻一号、本文96頁	
マイケル・ゴールド、栗栖継訳 人民作家のおもかげ(2)	39	昭和二十六年一月一日発行、定価六十五円(送料六円)	
フランス アラゴン	40	鈴木賢二 表紙(山のおかみさんたち)	
サカイ・トクゾー 人民詩の高まり	49	無署名 ENHAYO	0
ヒクメット、鹿地訳 詩三篇	50	無署名 目次	0
無署名 国際文学通信 中国 中国文学者の平和運動	52	郭沫若、島田訳 人民の牛となれ―魯迅はこう教えている―	1
アンドレ・ブリュムセル 国際文学通信 フランス	53	中山五郎 スケッチの機動力	2
スの進歩的な作家たち	54	平中忠信 闘う大衆と共に―自己批判・文学会の批判から―	3
ロバート・フリードマン 国際文学通信 ドイツ	55	オストロフスキ、おおたけ・ひろきち訳 私の創作活動について―(党委員会での活動報告)―	4
ス女史の近作	56	島田政雄 人民作家のおもかげ(3) 中国 丁玲(ティンリ)	5
無署名 国際文学通信 チェコスロヴァキア チェコの労働者文学学校	57	たなはし・一じ 運河よ	12
松田解子 殺すということに対する感覚について	58	無署名 革命暦の一月―三つのLについて―	13
藤森成吉 新劇の危機	60	サカイ・トクゾー いろいろ燃えろ 「一月の夜話」―三	15
牛越玉恵 下総台地の一端で	61	人の偉い人	16
豊田正子 靴なおしのおじさん	62	タカクラ・テル ぶたの歌	22
無署名 作品募集	64	半田義之 二本の木の子	22
無署名 人民文学十一月号目次	64	豊田正子、佐藤忠良さしえ 職人一家のゆくえ	23
河原崎長十郎 真実の道を歩む	65	無署名 中国「人民美術」より	24
編集部他 読者だより	69	佐藤忠良 所感	26
無署名 ENHAYO	70		26
編集部 地方サークル誌紹介	71		37
江馬生 編集後記	72		38
	72		45
	72		53
	73		54
	73		54

無署名 「ソビエトの芸術」より	55	55
本郷新 所感	55	55
原武男、佐伯良夫さしえ 車庫の中―機関区の春― (1)	56	63
牛越玉恵 峠―人民路線の文学者に―	63	63
石毛助次郎、佐伯良夫カット 忘れえぬ人たち	64	67
編集部 地方誌紹介	67	67
藤森成吉 分派―あえてことわるが、フィクションを加えた小説である。ヨリ真実であるために―	68	76
あいはら・きよし 僕たちは風をよぶ―函館共闘懇談会に寄せて―	76	76
趙樹理、島田政雄訳 李家荘の変遷 (第一回)	77	84
栗栖継 わが生涯の果実―フーチクの手紙―	85	90
無署名 国際文学通信 中国 文学芸術界は抗帝援隣のため	91	92
宣伝のしごとに起て	91	92
無署名 国際文学通信 ギリシヤ 死の島からの手紙―ギリシヤのマクロニソス島からの訴え―	92	94
無署名 国際文学通信 東欧 新しいヨーロッパの三人の作家	94	95
編集部他 読者だより	96	96
江馬生 編集後記	97	97
無署名 作品募集	97	97
二巻二号、本文 96 頁		
昭和二十六年二月一日発行、定価六十五円 (送料六円)		
新居廣治 表紙	0	0
無署名 ENHAYO	1	1
無署名 目次	2	3
江馬なかし 文学の大衆路線へ―なかの・しげはるの「人民文学と江馬の言葉」をよんで―	4	10
趙樹理、島田政雄訳 李家荘の変遷 (第二回)	11	19
文芸報社 文芸報編集委員会 中国文芸報社より島田政雄氏への便り	19	19
小林哲平 平和の戦士 パブロ・ピカソ―平和擁護大会での素描―	20	23
人民文学編集委員・藤森成吉、島田政雄、野間宏、豊田正子、江馬なかし 大衆の力で「人民文学」を守れ! 五十万円基金募集	23	23
片羽登呂平 松川事件をデッチあげた虫けらどもにおくる		
かつて萩原恭次郎は歌った。(腐った勝利に鼻はまがる)と。	24	24
川崎隆志 一九五〇年国際青年デー	24	25
福田穂 ビラに想う	25	26
酒井真右 祖国の山河たちへ	26	26
サカイ 詩を送れ	26	26
野間宏、佐藤忠良さしえ 夜の脱柵	27	35
無署名 投稿者諸君へ	35	35
矢島昇一 人民作家のおもかげ (4) ソヴェト オストロ		

フスキー	36	無署名 国際文学通信	ソヴェト	平和のためにたたかうソ
勝谷ふきお 煙突	39	ヴェトの文学雑誌	87	88
山本又男 「わだつみの声」に答える	40	無署名 国際文学通信	中国	文芸宣伝はじまる
本郷新 建立を拒否された戦歿学生記念像「わだつみのこえ」	40	無署名 国際文学通信	中国	文芸通信員懇談会ひらく
藤森成吉 絵本「日立物語」と「常東ものがたり」	55	無署名 国際文学通信	中国	中国の労働者演劇
岩倉政治 書評 二つの反戦作文	56	無署名 国際文学通信	ドイツ	新しいドイツのためにたた
M生 書評 旅順口	60	かう文学	91	92
葉挺 葉挺の詩	61	松木良雄 読者だより	如何に人民文学に結集するか！	
上田千之 きれいな髪のゆくえ—少年のための話—	62	編集部 読者だより	編集部から	
吉岡憲 さしえ	62	正子、なかし 編集後記	97	97
無署名 地方サークル誌紹介	63	二巻三号、本文96頁		
草 ^{フアオミン} 明、三好一訳 「原動力」が世にでるまで—中国女流	63	昭和二十六年三月一日発行、定価六十五円（送料三円）		
作家の創作苦心談—	64	無署名 表紙		
編集部 おねがい	68	人民文学編集委員・藤森成吉、島田政雄、野間宏、豊田正子、		
無署名 作品募集	68	江馬なかし 大衆の力で「人民文学」を守れ！	五十万円	
サカイ トクゾー 全国的な批判と討議へ	70	基金募集	1	1
中山五郎 大衆はニヒリストか（佐々木小次郎の幻術）	72	無署名 目次	2	3
豊田正子、佐藤忠良さしえ 職人一家のゆくえ	73	島田政雄 文学運動のあたらしい方向	4	16
黒崎桃吉 憎しみ—首のない詩抄—	80	無署名 四月号予告	16	16
押仁太 美術における大衆路線—「押仁太」について—	81	野間宏、佐藤忠良カット 夜の脱柵	17	22
(F) 平和ようごだより	85	柴田昭三 人民に仕える文学と人民におしつける文学		

無署名 投稿者諸君へ	23	26
袋一平 人民作家のおもかげ (5)	26	26
ソヴェト ファデーエ	27	32
山原袈裟乃、佐藤忠良カット 日本の夫へはるか新中国の妻よりの手紙	33	37
無署名 作品募集	37	37
ヒクメット、鹿地亘訳 私の心	38	39
江上つぎお 忘れられた作家ヴァレスおよびユーゴーのこと	40	42
などーパリ・コンミュンと芸術家たち	42	42
伊知井幸三 たつた二本の煙草	43	52
藤田孝美、佐藤忠良カット 検針員	51	51
無署名 地方サークル誌紹介	52	52
無署名 読者諸君へ	53	54
宋戸弥生 宮本百合子について 宮本百合子の死	55	57
玉城素 宮本百合子について 「風知草」その他	58	59
大場進 宮本百合子について 小林多喜二と宮本百合子	59	60
鳴木民夫 風がレールいつばいに吹いている	61	61
こばやし・つねお 一九五一年の正月 (北多摩平野の片隅から、松川事件の仲間におくる)	62	62
亘理妙子 湖	63	63
むらかみ・たかを 赤ん坊	64	64
多田洋一 どうして後悔をくりかえそう (全国講話愛国運動	65	65
藤森成吉 人民の演芸	66	66
無署名 映画紹介 中国人民の勝利	67	67
瀬藤祝 フランス映画とイタリア映画を見て	68	68
藤森成吉 続シアチウ物語	69	70
浜田初廣 「銃殺されたフランス共産党員の手紙」	70	71
孫 ^{スリ} 犁、中垣虎児郎訳 蓮湖	72	77
水谷護 「玄海」	73	77
橋本勝三郎 誓い	74	77
無署名 詩をかこう!	75	77
岡崎ふゆ子 Bの婚結式	76	79
(F) 平和のまもり	78	81
齋藤千 ^{うしお} 一九五〇年二月六日午前一時二〇分	80	83
玉木葉月 俳句 トロツコ	82	84
サラ・イシアントウラエワ 国際文学通信 ソヴェト	84	86
婦人デーを迎えて	85	86
唐至 国際文学通信 中国 たたかう北京の文芸界	86	88
無署名 国際文学通信 中国 党機関が文芸運動を支援せよ	87	88
無署名 国際文学通信 ブルガリア ブルガリアの作家たち	88	88
無署名 五十万円基金カンパの状況	89	89
無署名 ENHAYO	90	90
吉田嘉志雄 読者だより ぼくらの多喜二祭	91	91

編集部 読者だより 編集部から 95
 正子 編集後記 96

二巻四号、本文96頁

昭和二十六年四月一日発行、定価六十五円（送料三円）

押仁太 表紙

徳永富子 カット

人民文学編集委員・藤森成吉、島田政雄、野間宏、豊田正子、

江馬なかし 大衆の力で『人民文学』を守れ！ 五十万円

基金募集

無署名 目次

編集部 人権擁護のために闘え

馬 凡 陀、中国文学研究会浅野・大井訳 平和の戦士パプ 4

ロ・ネルーダー人民作家のおもかげ(6) 5

星野まもる 文学運動における組織の問題 12

相田百世木 俳句 工代会議 15

島田政雄 再軍備反対と『蟹工船』 16

瀬木富夫 "新聞を売る娘" 19

酒井真右 ぼんせいべえ屋も唄う 20

坂本俊雄 欠席裁判―松川事件の同志へ―(裁判長よ検事達 24

よ聞くがいい) 25

どい・よしのぶ 港灣労働者の歌 25

佐伯、志村幸子、福原真志、居坂 在中国の日本人から―人 28

民文学編集部あてに―(創刊号) 20

齋藤千 われわれは宮本百合子をダンガイする 29
 福島要一 「太陽は桑乾河を照す」について 30

無署名 作品募集 32

馬 凡 陀 たで喰う虫もすきずき 33

野間宏 戦争に抗して 34

宇田川良 短歌 再軍備反対 37

無署名 書評 アラゴン著『フランスの起床ラッパ』 38

無署名 書評 ワシレフスカヤ著『愛』 39

無署名 五十万円基金応募者芳名録 38

無署名 国際文学通信 アメリカ アメリカ文壇の傾向 40

無署名 国際文学通信 ソヴェト 朝鮮解放五周年を記念す 41

る文学の夕べ 41

無署名 国際文学通信 チェッコ 新中国の文学に何を学ぶ 42

か―作家大使ヴァスコップ氏の言葉― 42

無署名 国際文学通信 中国 上海の文芸工作者より日本の 43

文芸工作者へ 43

佐藤代治 読者だより 松川事件の被告より 44

加藤朝吉 読者だより 働くものの文学だ 47

江馬なかし、徳永富士子さしえ 本郷村善九郎―戯曲 六場 48

石田幹雄、じつかわ・すすむカット 町工場で 76

豊田正子、佐藤忠良さしえ 職人一家のゆくえ【三】 88

無署名 ENHAYO 96

無署名 エスペラントの目次について

無署名 (訂正)

正子 編集後記

96
96
96
97
97

二巻五号、本文96頁

昭和二十六年五月一日発行、定価六十五円(送料三円)

チェン・イエンチャオ 表紙(中国版画) 報復(おもいれ)

人民文学編集委員・藤森成吉、島田政雄、野間宏、豊田正子、

江馬なかし 大衆の力で『人民文学』を守れ! 五十万円

基金募集

無署名 目次

麥稈 (目次カット)

無署名、麥稈カット メーデーを目ざして—各大衆団体の文

芸工作運動—

関鑑子 すべては大衆の力によつて

ひら・しんじ 愛国的人民の炎をもやせ—北海道から—

共同印刷労組人民文学友の会 メーデーはおれたちのもの

近江幸正 子供たちと—しよに—人形劇団日曜座—

青森労働者文学研究会 人民の統一のために

市川楽三郎 メーデーにむかつての前進座

無署名 あたらしい国際平年賞受賞者

西郷竹彦抄訳 国際スターリン平和賞を受けた人々—「文

11
11
10
10
8
7
6
6
4
4
2
2
1
1
2
2
1
1
11
11

化と生活」誌より

ピカソ 平和の鳩

無署名 地方サークル誌紹介

モイセイエンコ、佐藤修一訳 人民作家のおもかげ(七)

トルコの愛国詩人ナジム・ヒクメット—

島田政雄、滝平二郎カット 毛沢東の「実践論」と文学

サカイトクゾー、新居廣治カット 愛国人民詩歌の発展

春日正一 春日正一の書簡 人民文学社へ

おいかわ とおる 五月一日の歌

おおせき・こういち 女房よ—第二十二回メーデーによせて

—

サカイ トクゾー 漫画二題

さかいばら いつお 多摩の青年たちにおくるうた

岡本重吉 ピイピイ草へ

川原治 ひつばがすならはがしてみよ!

タカクラ・テル、新居廣治カット わたしのあるいてきた道

無署名 五十万円基金応募者芳名録

山原袈裟乃 日本の夫へ—はるか中新国の妻よりの手紙(2)

—

藤森成吉 詩 戦争

福島要一、竹内好、渡邊順三、徳永直、新居廣治、吉井忠、

53
53
46
46
45
45
40
40
39
39
37
37
35
35
34
34
33
33
30
30
21
21
15
15
14
14
12
12
12
12
12
12
14
14

鈴木賢二、淡徳三郎、松田解子、秋田雨雀、新島繁、袋一平、荒正人、河原崎長十郎、金親清 アンケート 上海文化芸術工作者総会の行動綱領十カ条をよんで	54	56	無署名 中国の絵物語「松川事件」	93
無署名 国際文学通信 中国 上海の文化芸術工作者より日本	57	58	河合好子他 読者だより 平和のために全力を	94
無署名 国際文学通信 中国 中国文学芸術界における一九五〇年の成果と一九五一年の方針	58	59	無署名 ENHAWO	96
無署名 国際文学通信 ソヴェト 文学におけるスターリン	59	59	編集部 読者諸君に	96
賞受賞者	59	59	なし 編集後記	97
エフゲニー・プラリニコフ 国際文学通信 ソヴェト ソヴ	59	61	二巻六号、本文96頁	
エト作家同盟の青年作家たちとの対談	59	61	昭和二十六年六月一日発行、定価六十五円（送料三円）	
無署名 国際文学通信 アメリカ ハワード・ファストの新	61	61	本郷新 表紙 平和の歌	
作	61	61	無署名 世界平和評議会の呼びかけ 五大国による平和協定	1
無署名 国際文学通信 アメリカ アメリカの受賞作品	61	61	締結の要求	1
高橋星河他 俳句 旗の波	62	62	無署名 目次	2
豊田正子、佐藤忠良さしえ 職人一家のゆくえ【四】	63	70	洪荒 目次・カット……漫画（極端な対照）	2
おおせき こういち 短歌「軍用列車」から	69	69	春川鐵男、佐藤忠良エ 日本人労働者 第一部	4
無署名 人民作家のおもかげ（前号までに紹介したもの）	70	70	福田穂 短歌 軍用車音	29
石毛助次郎、さえき よしおカット 馬小屋	71	84	小島進 あらしに抗して	30
かしはら・かずを 俳句 多喜二の忌	83	83	加賀耿二、押仁太カット 道づれ	41
村石玉恵 俳句 多喜二の忌	83	83	北奥三郎 短歌 選挙戦	48
工藤武雄、鈴木賢二カット 斗かう仲間―戯曲一幕―	85	93	ア・フアデーエフ、T訳 文学とことば	49
			無署名 前号の修正とおわび	51
			青倉人士 俳句 職安の道	52
			春日正一 「桑乾河」と「綴方教室」をよんで	53
			サカイ・トクゾー 詩歌はたたかっている―詩歌活動家の当	54
			面する任務についての断片的感想―	57

今岡正三 第二十二回 統一メーデーをうたう

畑中俊平 全面講和大会

齋藤千 チェコスロヴァキアの兄弟の激励に答えて

うさみ なおき よるの工作

岩瀬日出雄 裁判

相良春子 握手

人民文学編集部 「新日本詩人」一部幹部の分裂策動につ

て

藤森成吉 関西の平和運動

人民文学社 中国の文化芸術工作者のメッセージに答える

68 69

草明 「原動力」の作者 草明女史の自伝

大逸敬二郎他 俳句

小松三千夫他 短歌

石井藤子、福田穂評 サークル誌寸評

野間宏 詩人集団について(1)

其井豊 平和のためにたたかう作家たち

袋一平 人民作家のおもかげ(八)——ソヴェトの作家シヨ

ロホフー

無署名 五十万円基金応募者芳名録

其他 読者だより

無署名 ENHAYO

なかし 編集後記

正子 編集後記

97	97	96	93	92	86	81	78	76	74	72	70	58
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
97	97	96	95	92	92	85	96	77	75	73	71	60
												61

二巻七号、本文 96 頁

昭和二十六年七月一日発行、定価六十五円(送料三円)

無署名 表紙(東京荒川の某金属工場での講和署名)

佐藤忠良、滝平二郎 本文カット

人民文学編集部 「人民文学」の読者倍加運動に諸君の熱心

な協力をねがう

無署名 目次

岩上順一 蔵原の文化理論について

無署名 世界青年学生平和祭にわれわれの作品を送れ!

8 8

伊豆公夫 真実と文学と人間性——なかの・しげはるの心理と

論理——

O・S生 芝浦どっこい

江馬なかし もりあがる人民文学運動

春日正一 二十九才のたくましい党(日本共産党二十九周年

をむかえて)

許南麒 詩 火繩銃のうた——朝鮮の多くの悲しい妻と母と、

娘達におくる——

其井豊 国際文学通信 平和のためにたたかう作家たち(2)

無署名 「文学通信」第一号七月一日発行

ひろし・つだ 詩 六三型が火をふいた

安信サツエ 詩 わが子道程と大地え(獄中の母より)

52	51	47	18	14	13	9	8	4	2	1
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
53	51	51	46	16	13	13	8	8	3	1

中田良克 詩 貯炭場のたそがれ	53	テインリン	87
きくち さかり 詩 パーマネントをかけた豚	56	無署名 仲間の会を作ろう育てよう	92
井上俊夫 詩 もうドレイ兵士ではない―やがて八・一五を	56	K・I生 『うたごえ』の出るまで	92
むかえる―	57	圭二 原稿とくそく歌	92
まき・かずひろ 詩 朝鮮の大地にささげるうた―朝鮮動乱	57	小野弘 小さい提案	93
一周年をむかえて―	58	宮脇千秋他 読者だより	94
今井隆 詩 あなたたちの安否	59	なかし 編集後記	97
エム・イサコフスキー、吉成大志訳 詩 平和のことば―メ	59	二巻八号、本文96頁	
―デーを祝して―	60	昭和二十六年八月一日発行、定価六十五円（送料三円）	
東 今月の収穫―詩によせて―	60	トムスキー 表紙……ゴリキ―の胸像	61
岩上順一評 書評 笠信太郎著『ものの見方について』	52	滝平二郎他 本文カット	54
石井藤子評 書評 老舍著『四世同堂』	54	広島平和祭祭典準備会 原爆の都、広島平和祭に全日本の	58
人民文学社 平和の作文運動 八・一五記念日を目ざして	58	平和愛好者の参加を訴える	60
丹田一他 俳句	61	無署名 目次	61
横井源次郎他 短歌	62	いわさき・ちひろ 目次カット	62
野間宏 詩人集団の活動（二）	63	無署名 八・一五平和ようご記念特集	63
小松三千夫 広島の子	64	葦百合子 母さん	64
どい・よしのぶ ある朝の荷役労働者	68	大山みよ子 女だつてできる	67
「人民文学」編集部 五十万円基金応募者芳名録	76	山崎正和 木こりは斧を	75
土井道子他 短歌	80	岩瀬日出雄 おれを調べる松川事件の検事	80
豊田正子 職人一家のゆくえ（五）	81	中原信吉 木更津のうた	81
	82	わがつま・けいすけ おれわ あいする	82
	86	ささ すすむ ガム	89

こばやし じつや 更生基金箱をぶら下げて	9	10
真木尚二 五大国平和投票	10	11
さいとう ゆき 平和の鳩よ! はばたけ! とびたて!	12	12
豊田正子、齋藤繁子 在中国の日本女性から	13	17
無署名 横浜ツルミの平和俳句会	17	17
中村翫右衛門 一步、一步、大衆の道へ! (走り書きの報告)	18	21
大田省次他 短歌	21	22
牧浩平 人民作家のおもかげ (9) 中国 魯 ^ル 迅 ^{シユン}	23	28
深川宗俊 ヒロシマ	28	28
中原淳吉 獄中にて	28	28
相田百世木、高橋星河、古澤太穂共選 俳句	29	29
春川鐵男 日本人労働者 第二部	30	33
春川鐵男 『日本人労働者』の作者から	34	36
澤まや子 同志をうばい返す話	37	45
赤木健介 文芸時評 新しい現実をえがこう 「日本人労働者」その他	46	49
江馬なかし ピカソのこと―若い画家へおくる―	50	53
吉井忠 第五回職場美術展をみる	54	56
(サ) 平和と独立の歌 北海道の巻 (サークル訪問)	57	59
無署名 五つの大国に父母兄弟と共に	59	59
岩崎昶 『どっこい生きてる』のいいところ悪いところ	59	59
人民文学編集部 松川事件の真相	60	62
阿部市次 真実はこうです	63	64
齋藤千 松川事件	64	67
セルゲイ・ペトロフ 国際文学通信 平和の戦士マキシム・	68	70
ゴーリキー (ゴーリキーの十五年忌によせて)	68	70
エフゲニー・ドルマトフスキー 国際文学通信 平和の事業	70	72
につかえるソヴエトの詩	70	72
無署名 国際文学通信 金日成の文学者へのよびかけ	72	73
除村吉太郎 百合子の「道標」をめぐって	74	78
藤森成吉 中野の手口	79	81
編集部 農民小説、農村通信を求む	81	81
岩上順一 民族解放の文学のために―蔵原の文学論批判―	81	81
鈴木信 松川事件と宮本百合子	88	89
無署名 サークル 仲間の会を作ろう育てよう―文学サークルとはどんなものか―	88	89
編集部 ゴーリキーのために記念集会をもて	90	92
金哲他 読者だより	92	92
無署名 原稿募集	93	95
加藤三佐 松川被告の詩 あおいの花	93	95
佐藤代治 松川被告の詩 労働者の祭	95	95
さとう・はじめ 松川被告の詩 生きる道	96	96

二巻九号、表紙「910合併 中国・朝鮮文学特集」本文96頁
昭和二十六年十月一日発行、定価六十五円（送料三円）

無署名 表紙 九・一平和推進国民会議主催の単独講和反対
デモ（東京）

許南麒詩、金敬在曲 文工隊のうた 1 1 1

無署名 目次 2 2 3

ピカソ 目次カット（朝鮮の虐殺） 2 2 3

「人民文学」編集委員会 すべての愛国者・文学者にうった
える 桑 ^{サンフランシスコ} 港講和とそれにつづくもの——民族解放の統 4 4 6

一戦線に参加しよう！ 4 4 6

「人民文学」編集委員会 日共にたいする弾圧に抗議する 6 6 6

サカイ・トクゾー 新中国は日本人民の胸に 7 7 9

無署名 単独節（炭坑節の替うた） 9 9 9

松田解子 地底の人々——中国人をはじめとする花岡の犠牲者
に捧げる！ 10 10 24

昇曙夢 奄美大島を語る もりあがる民族運動 25 25 28

坂本俊雄 詩 君たちの闘いは平和と独立の闘いだ——英雄的
に闘いをすすめる上砂の兄弟え！ 28 28 28

小川宇一他 短歌 29 29 29

タカクラ・テル チャオ・シュリ（趙樹理）の「李家荘のう
つりかわり」 30 30 37

在日朝鮮文学会 朝鮮民主主義人民共和国三週年に際し 平
和と自由と文化を愛好する日本国民に訴える 38 38 38

甘文芳 魯迅逝世十五週年の記念日にあたつて——中華人民共
和国建国二週年を祝いつつ！ 39 39 39

趙基天 朝鮮は戦っている！ 40 40 42

島田政雄 中国革命と中国文学 43 43 55

鈴木信 町から村から その日、私は何をしていたか？ 54 54 58

無署名 「町から村から」に原稿を送れ 56 56 56

松田武 予備隊日記 予備隊の一日 59 59 60

T・H生 予備隊日記 わたしの経験 60 60 62

吉田嘉志雄 金さんの平和投票 62 62 66

金田明夫 ロツプ——ペンキ屋の歌 67 67 67

小松三千夫 平和への願い 67 67 67

土井道子 八月十五日 67 67 67

角俊広 起重機 68 68 68

堀内春吉 亡霊のうた 68 68 69

田村英一 岡の上から——青年平和代表者会議防衛 69 69 70

G・K生 単独コーワとはこんなもの 70 70 70

氏家惇二 京子よ 70 70 70

郭沫若 日本人民よ救国に立ち上れ 郭沫若氏から公開状 71 71 71

無署名 東京都で公安条令の廃止運動発足 71 71 71

後藤料光他 読者だより 72 72 73

あいくに・わへい おいらの日記詩抄 74 74 75

無署名 サークル 仲間の会を作ろう育てよう 編集部から 76 76 76

呉隆 闘う大衆とともに―新しい活動家をうむ海岸文学サークル 76 〽 77

石黒米次郎 鶴造文学サークルの古いものと新しいもの 78 〽 79

徳永直 書評「原動力」と「甦える大地」 80 〽 82

熱田五郎 たたかいを殺すもの 83 〽 96

無署名 編集あとがき 97 〽 97

二巻十号、目次に「ロシア革命三十四週年記念」本文112頁

昭和二十六年十一月一日発行、定価七十円（送料三元）

無署名 表紙 女学生のデモ（ウクライナ共和国一九五一メーデー）

久米宏一、滝平二郎外 本文カット

無署名 目次

古元 目次カット（中国版画）牛のむれ 草はこび -2 〽 -1

サカイ トクゾウ作詩、サカイ テルコ作曲 救え、20人 1 〽 1

の愛国者

編集部、淡徳三郎、長与善郎、松村一人、佐山済、齋藤秋男、

金子光晴、小牧近江、小場瀬卓三、石川達三、竹内好、桑

島信一、小松清、内山完造、中野秀人、坪野哲久、内山賢

次 郭沫若氏のよびかけに答える 2 〽 5

西尾章二 十月社会主義革命とソヴェト文学 ゴーリキーと

マヤコフスキー 6 〽 11

除村吉太郎 スターリンの「作家への手紙」は何をおしえる

か（1）

岩上順一 ソヴェト文学は平和のためにたたかう 15 〽 19、38

編集部 ソヴェト新詩選 20 〽 23

ミハイル・ドゥージン、木村浩訳 平和の民なるわれらは戦

争を欲しない!! 20 〽 21

セルゲイ・ワシーリコフ、長田志郎訳 白樺 21 〽 21

セルゲイ・ミハルコフ、長田志郎訳 交代部隊 21 〽 22

ヤロスラフ・シユポールタ、其井豊訳 イランの手帳より 22 〽 23

鳥徹 随筆特集 革命記念日の思い出 モスクワと潜・片山 24 〽 29

藤森成吉 随筆特集 ハリコフの革命記念日 30 〽 32

前芝確三 随筆特集 菊の花と革命記念日 32 〽 34

徳永直 随筆特集 ロシヤ革命に一命をささげた日本人サト

ウについて 34 〽 37

無署名 各地で盛大なゴーリキー、魯迅祭 37 〽 37

赤石達也他 短歌 38 〽 38

「人民文学」編集部 詩集 松川のうたごえ 文学者の良心 39 〽 39

と正義にかけて松川の人々を救え 39 〽 39

北條さなえ 無実の罪にとわれた愛国者のうた―松川の愛国

者たちにさゝぐー 39 〽 40

鈴木信 数億の星のひとみよ 40 〽 41

加藤謙三 『平和のうたごえ』をふところに斗うぞ 41 〽 41

さいとう ゆき お母さん！もうすこしです がんばってく

ださい

野間宏 平和の方に向う世界の眼

無署名 松川詩集と松川文集について

赤木健介 文芸時評 文学者の統一戦線について

無署名 「人民文学」一週年記念祭 読者の投稿をつのる！

廣田耕作 町から村から くそとしよんべんの話

諏訪彌佐吉 町から村から よろんちようさ ター坊の日記

抄(1)

編集部他 町から村から 動けぬベットから—清瀬上宮療園

の松川署名活動—

玉木葉月 俳句 日当のピン勿ね

矢代東村選 短歌(自由律)

わへい うたう国民日記

野間宏 照りががやく光—一年間の私の回想—

小泉みち子 「新日本文学」と「人民文学」について—私の

経験から—

島田政雄 人民文学の一年 人民文学のあるいて来た道

上海文学芸術界連合会 われわれの呼びかけにたいする日本の文化人の答えを読んで

竹田葉介 村の衆

うえまつ・かずお ニューヨークのカブト町

くさか・よしすけ さようなら おやえ

権敬澤 小供たち

内藤三歳子 老易者も叫ぶ

このの・わたる 原爆記念全国平和会議万才!—八月六日広島にて—

無署名 読書案内『金の星の騎士』

無署名 読書案内『大陰謀』

無署名 読書案内 詩集『平和のうたごえ』

酒井真右 サークル 仲間の会を作ろう育てよう うわツつらをなで

いた文学活動

無署名 良書紹介 長田新編『原爆の子』

古澤太穂選 労働者の俳句作品から

淵田一久他 読者だより

アントーノフ、吉原武安訳 朝

石毛助次郎、滝平二郎カット 母と予備隊

松田解子、押仁太カット 地底の人々(2)

(A)、(サ) 編集あとがき

二巻十一号、表紙「サークル特集・松川事件特集」(小説)

日本人労働者(第二部完結) 本文112頁

昭和二十六年十二月一日発行、定価八十円(送料八円)

新居廣治 表紙 日立のたたかい

無署名 目次

滝平二郎 目次カット

無署名 松川事件と文学

42
42

43
43

43
43

44
47

47
47

48
50

50
52

52
54

54
54

55
55

56
56

57
60

61
64

65
73

73
73

74
74

74
75

75
76

76
76

76
77

77
78

77
78

74
75

75
76

77
78

79
81

80
80

81
81

82
83

84
92

93
100

101
112

113
113

1
1

-2
-1

-2
-1

-2
-1

-2
-1

1
1

春川鐵男 日本人労働者 第二部	2	27	内山完造 魯迅さんをしのぶ	55	57
新島繁 大衆文学とは何か 近頃の新聞小説について	28	33	石川涌 抵抗・平和・文学 クロード・モルガンのことなど	57	59
たかはし・しんいち 時代物を読む気持	34	38	穴戸弥生 北風	60	60
無署名 全国編集委員制についてのおねがい	38	38	しまもと ただお みてやって下さいーある母のうたえるー	60	61
無署名 文学は大衆の中へ行くー全国各地のサークル報告からー	39	47	湯川純 M丘の日	61	62
いぜき・みちお、桑原武 うんとなんぎ 松江地方における	39	42	ゆうき・かおる 公安条例撤廃せよ！うばいとれ嵐のように	62	63
文学運動のあゆみ	39	42	いぜき・みちお 風の子	63	63
熊本再春荘人民文学友の会 療養所内の文学活動	42	43	朝香進一 架線電工の歌	63	64
高島青鐘 下丸子文化集団の中から	43	43	松本二郎 「平、和、の、た、め、に、ま、い、り、ま、し、た」	64	65
中門英幸 より広くより深くー北九州・新萌文学サークルの	43	45	あかい・すゝむ 工場の騒音のなかで	65	65
報告ー	43	45	まき・ひろし 牛の谷 ^ヤ ズンドコ節	65	65
新潟詩のなかまの会 『詩のなかま』が生まれました	45	46	(サ) 歌ごえは進む(投稿詩作品批評)	66	66
隆村孝平 新しい方向への苦悩ー文京詩人集団中間報告ー	46	47	松田解子 松川事件の被告と家族をたずねて	67	73
北海道全通増郵文学会 袖木衆三、青森労働者文学研究会、			小野十三郎、植村諦、許南麒、近藤東、江口棒一、新岩手詩		
新岩手詩人集団 おいかわ・とおる、人民文学盛岡友の会、			人集団、高萩歌人集団、うんなん詩の会、青森労働者文学		
芳賀通信 ささ・すすむ 人民文学のよかつたところ悪か	47	49	研究会、京都詩文学作家集団、群馬勤労者集団 松川詩集		
つたところーサークルからの批判と希望	47	49	『八千万の兄弟に捧げる歌』を読む	74	75
福田穂評 サークル誌寸評	50	51	渡邊順三 松川事件の被告に贈る	75	75
倉石武四郎 郭沫若氏に答える	51	51	赤木健介選 短歌	76	77
編集部 サークルの方向	52	52	松本新八郎 町から村から 百姓武左エ門	78	80
あいくに・わへい うたう日記	53	53			
亀井勝一郎 現代の悪夢	54	55			

澤田正夫	町から村から	正坊の映画サークルの巻	81	83
河原一枝	町から村から	たれが犠牲者か?	83	84
山本平八郎	町から村から	緑の鉛筆	85	89
山原けさの	町から村から	新中国からの愛情—続日本の夫	89	90
へー			89	90
高橋星河選	俳句		91	91
稲垣哲他	読者のたより		92	93
無署名	原稿募る(詩歌特集)		93	93
松川詩人集団問、サカイ・トクゾー答	入門講座	詩作問答	94	98
福田穂	冬芽のうたごえ(文芸時評)		99	102
松田解子	地底の人々(3)		103	111
島田政雄	魯迅をしのぶ会		111	111
根本篤、島田政雄、朴元俊	質問室		112	112
(A)	編集あとがき		113	113
事務局	かさねて財政の危機をうったえる	われわれの「人	113	113
民文学」を守ろう			113	113
無署名	原稿募集		113	113
三巻十四号(正しくは三巻一号。通巻十四号)、表紙「新年小				
説特集号」本文112頁				
昭和二十七年一月一日発行、定価八十円(送料八円)				
無署名	表紙			
滝平二郎、大野碌郎	カット			
無署名	目次		-2	-1
無署名	人民文学の発展のために 第二回基金カンパのうつ		0	0
たえ			0	0
無署名	盛大だつた「人文」一週年記念『文学祭』		0	0
編集部	1952年をむかえて 「小説特集」を送る1		1	1
金親清	九十九里海区(第一回)—この長篇を「松川事件」		2	15
の全被告とその家族にささぐ—			2	15
山野五郎	ボタ山の火		16	24
無署名	文化短信		24	24
石田幹雄	芽ぐむ雑草		25	33
吉田治平	川柳 天皇国体に来る(国体へ)		33	33
松本鋼一	兵士ラニー		34	39
エディト・トーマ、安東次男訳	わたしの友だちはみんな死		39	39
んだ			39	39
京大文学サークル	ルポ 「平和のうた」は「君が代」をか		40	45
きけた—京大天皇行幸事件—			40	45
迫樹	京大事件(川柳)		45	45
坂本忠	ルポ 怒りの街—軍港・佐世保—		46	51
大津詩人集団合作	南の島の兄弟とともに		52	52
村上草太郎	武士の町でござる		52	52
方羽登呂平	日本時事詩		52	53
おいかわ・とおる	(散文詩) 虎大統領の演説		53	53
仲野谷清	酒ぞう		53	54
須山廣志	おれは連結手		54	54

キムラ・キイチ 印刷工のうた

55 55

あかい・いさむ ひる近き工場

55 55

由利左門 道

56 56

藤森成吉 松川公判傍聴記―松川事件第一次調査団長として

57 61

無署名 読書案内

61 61

まつしま・えいいち どこへ消えゆく―民族の文化財

62 65

矢代東村選 短歌

66 66

オカノ・ケン 町から村から 生きている俺らの姿―足立職

67 69

安から―

67 69

能智愛子 町から村から 小さなクツみがき―ほんとうに、

69 71

あつたこと―

71 73

細川俊 町から村から それでも行く―街頭で―

71 73

人民文学編集委員会 多喜二祭を準備しよう―悪法反対斗争

73 73

のために―

73 73

福田穂、多田洋一、東竹雄評 サークル誌評

74 75

無署名 全国職場サークル誌展示―東大教養学部駒場祭の報

74 75

告から―

74 75

磯武平 文芸時評 文学者の皆さんに

76 77

石黒米治郎 文芸時評 もつと現実にそくして―『母と予備

77 79

隊』について―

77 79

岡田一夫 文芸時評 日本文学の出路―『不在地主』と『ぶ

80 81

たの歌』―

80 81

原謙太郎 文芸時評 方言とかなずかいの問題―文章の書き

80 81

方―

柴田利夫 停電のうた

81 83

小澤清 冬の話―屋根の上―

84 87

無署名 『人民文学』二月号予告

87 87

岩崎宏文 どら声

88 95

赤馬吉直 現代トコトンヤレ節

95 95

加賀耿二 犬と泥坊

96 110

阿部市次他 読者だより

111 112

(A) 編集あとがき

113 113

無署名 原稿募集

113 113

三巻十五号(正しくは三巻二号。通巻十五号)、表紙「詩歌特

集」本文112頁

昭和二十七年二月一日発行、定価八十円(送料八円)

無署名 表紙 冬の野良にはたらく日本の農婦(背景は会津

磐梯山)

無署名 目次

-2 -1

鈴木賢二 目次カット 郷土玩具(右からトヤマ県、アイチ

-2 -1

県、トチギ県、グンマ県、アオモリ県)

無署名 人民文学の発展のために 第二回基金カンパのう

0 0

たえ

無署名 基金カンパ第一次報告

0 0

サカイ・トクゾー 平和の友よ手を握ろう!

1 1

無署名 解説 大山郁夫氏にスターリン国際平和賞

1 3

島田政雄	日本人民に贈られたもの——大山郁夫氏訪問記——	2	3
ステパン・シチパチョフ、佐々木彰訳	パーヴリク モロ	4	22
ソフ		4	22
徳永直	小林多喜二と宮本百合子(1)	23	29
無署名 Pさん		29	29
イ・スターリン	日本国民にたいするイ・スターリンの新年のメッセージ	30	30
「人民文学」編集委員会(起草者 徳永直)	ソ同盟スター	30	31
リン首相の新年メッセージに答える		30	31
無署名 京大平和の歌		32	32
山崎正和	「京都大学一万の学生よ」	32	33
田中マサル	京大天皇事件のうた	34	35
(サ)	豆詩集まかり通る	32	38
若杉卓二	小林多喜二に捧げる 炎は燃えている	36	41
三枝ともみ	小林多喜二に捧げる 誓い(亡き同志小林多喜二に捧ぐ)	41	42
(サ)	各地の平和詩集	38	43
無署名 南海の島々の声		42	42
山路隆司	ふるさとへの愛	43	44
丸山三郎	アメリカ人にはなれない	44	44
無署名 アジアは互に戦わず		45	45
唐木田明雄	仲間よ、考えてくれ——すべての、親子爆弾製造工場の労作者へ——	45	46
鈴木信	アジアの兄弟	46	46
中村翫右衛門	民謡とおどり——歩々々大衆の中へ——(二)	47	50
箕作秋吉	民謡と音楽	51	53
サカイトクゾー	詩サークル運動の発展	54	57
編集部	松川被告からの「人民文学」読者へのうたえ	57	57
多田洋一	詩集「平和のうたごえ」	58	60
由利左門	こども(1)(2)	61	61
因藤莊助	いつまでも眠っている妹に	61	61
矢田妙子	体温	61	62
宮乃宇良夫	電気冷蔵庫の中の名誉	62	63
影山啓	損札を数える	63	64
黒谷流二	ぶんがくまつり——人民文学一週年記念に——	64	64
どい・よしのぶ	この港をとりかえそう——港湾労働者会議代	64	65
表二百のうたごえ——		64	65
徳永直	同志佐藤の追悼会	66	68
橋本公成	同志佐藤三千夫に捧ぐ	66	68
首藤瓢々	故佐藤三千夫第卅回忌に当り墓前にさぐ十句	68	68
村石玉恵	日本人サトウにささぐ	68	68
赤木健介選	短歌	69	70
神奈川県住吉小学校二年一組生徒	町から村から のろのろ	71	73

すどう・かずお	せんそう	71	71
平山二郎	大きくなつて	71	71
小島悦子	おかあさん	72	72
川久保正博	あそぶ	72	72
M・I	先生のうまいこと	72	72
杉原征价	せんそうがおわる	72	72
いむた・ささこ	かえるのおやとどじょうのおや	72	73
I生	町から村から 高い掃除器・安い賃金	73	73
林稔	町から村から らくがき	74	76
高橋新治	町から村から ある農村青年の悩み—K君への手紙より—	76	78
広江天痴人	川柳	78	78
木島始	読書案内 『医師バツーン』	79	80
野間宏	読書案内 『新中国教師の父陶行知』	80	81
岩上順一	読書案内 昼となく、夜となく	81	81
春日正一	読書案内 山の民	82	82
島田政雄	読書案内 下街の故郷	82	83
藤森成吉	読書案内 人間の歴史第一巻	83	83
赤木健介	読書案内 炭坑四人詩集	83	83
矢代東村	短歌 気遣いになることもなく	84	84
古澤太穂選	俳句	85	85
松田解子	入門文学講座 小説をかくくるしみ	86	90
古澤太穂	霜(俳句)	91	91
井上満	ストーリーはじめて日本国民に年頭の辞をよす	91	91
無署名	文化短信	91	91
ひつとばし・すすむ	サヨナラ	92	98
岩倉政治	大野ガ原開拓団	99	112
編集部	おわび	112	112
(A)	編集後記	113	113
無署名	原稿募集	113	113
三巻三号(通巻十六号)	表紙「叙詩 おまえはいまどこにいるか(林和・許南麒訳)」	113	113
うか(文化人二〇氏)	本文112頁	113	113
昭和二十七年三月一日発行	定価八十円(送料八円)		
新居広治	表紙 帰省		
新居広治	其の他 本文カット		
無署名	目次	-2	-1
鈴木賢二	目次カット	-2	-1
無署名	人民文学基金カンパ 第二回発表(2月10日現在)	0	0
編集部	本誌題名をかえることについて——大衆討議をのぞむ	0	0
無署名	『人民文学』事務局日誌	0	0
無署名	文学のおもしろさと夢	1	1
まるやま・てるお	物語はいかにして作られたか	2	7
田中修三	ピケット・ライン	7	7

山本幸一 松川公判	7	7	岩上順一 文芸時評 戦争の傷痕	46	46
小松三千夫 此の頃	7	7	岩上順一 読書案内 暴風しゅう雨(上)	52	52
南昌三 おんつあんの夜語り	8	14	能智修弥 読書案内 戯曲「新しい事物の前に」	52	53
無署名 新刊紹介 世界抵抗詩選	14	14	猪野千鶴 読書案内 塔の上の旗	53	53
本田喜代治 時事解説 スターリンメッセーの背後にあるもの	15	17	大木清一 町から村から 農村見聞記	54	56
林 ^{リム} 和、許南麒訳 おまえは いまどこに いるかー愛する	18	21	つやまけいこ 町から村から 世田谷のボロ市	56	58
むすめ ヘエランにー	18	21	高島鉄哉 町から村から 職安行	58	62
編集部、深尾須磨子、石塚友二、平野謙、山田清三郎、小野			深川宗俊 町から村から ヒロシマから	62	63
十三郎、失名子、小場瀬卓三、久保栄、内田巖、小牧近江、			根岸忠 おとな	62	63
広末保、井上友一郎、久保田正文、河原崎長十郎、山岸外			神老 ピカドン	63	63
史、安部公房、橋本英吉、神近市子 スターリン・メッセ			水上正弘 げんばくの子	63	63
ージをどう思うかー文化人の感想ー(到着順)	22	27	岡本俊夫 (詩)	63	63
あいくに わへい、赤形直吉、中野昭 われら詩をもつてー	22	27	寺西邦雄 (詩)	63	63
スターリンの挨拶にこたえる	28	29	無署名 文化短信	63	63
春日正一 短歌 スターリン・メッセーを読んで	30	30	牧清一 北風よ	64	65
藤森成吉 世界平和賞受賞者 郭沫若氏へのお祝いのことば	31	33	いぜき・みちお 監房詩集	65	66
齋藤秋男 郭沫若ー平和擁護運動への献身ー	33	34	荒井勇 地図	66	66
徳永直 小林多喜二と宮本百合子(2)	35	38	ノサカ・ハタエ その顔	66	66
橋本夢道 俳句 餅の話	38	38	わがつま けいすけ きょー いちにち	67	67
横田瑞穂 ゴーゴリ死後百年祭記念 ゴーゴリとその文学に	39	43	瀬木富夫 (ママ) 逗子海岸で	67	67
ついて	39	43	編集部 自由な広場	68	68
古沢太穂選 俳句	44	45	サカイ・トクゾー 自由な広場 ひとつかみの紙	68	68
			佐藤一 自由な広場 裁判長と"船長"	68	69
			山本洋助 自由な広場 正しい文学理論を	69	70

宮乃宇良夫 自由な広場 特別席からの作品	70	71
コージン 東京でうようよしているアメリカ人	71	71
高原詩の会 私たちのサークル活動の教訓から	72	75
(サ) おれたちの詩選集紹介	72	75
玉城肇 日本の人民作家 I 木下尚江—明治2年—昭和12年—	76	80
無署名 文化短信	80	80
長崎S生、広島E生、編集部 質問室	81	81
渡邊順三選 短歌	82	83
岩倉政治 大野ガ原開拓団	84	109
向山宏他 読者だより	109	112
(A) 編集あとがき	113	113
無署名 原稿募集	113	113
三巻四号(通巻十七号)、本文112頁		
昭和二十七年四月一日発行、定価八十円(送料八円)		
レオナルド(ママ) ダヴィンチ 表紙 子供の顔		
無署名 目次	-2	-1
滝平二郎 目次カット	-2	-1
無署名 人民文学基金カンパ	0	0
無署名 『人民文学』事務局日誌	0	0
編集部、大山郁夫、中島健蔵 多喜二を思う 東京の多喜二祭	1	4
金親清、中原保男画 九十九里海区 第二回	5	16
無署名 学生の詩集を出そう—全日本学生詩集について—		
小島進、出崎郷画 ある労働者の一日	17	24
小澤清、出崎郷画 駅まで	25	28
無署名 原稿をつくる	28	28
齋藤隆介、中原保男さしえ 童話 八郎	29	32
武田久 冬芽	32	32
島田政雄 国民解放の文学	33	41
無署名 日本人はすぐれた国民だ! コージン氏は語る	42	43
徳永直 大衆は雑草ではない 「日本人労働者」によせて	44	48
新村猛、貴司山治 スターリン・メッセージへの感想	49	49
サカイ・トクゾー、鈴木茂正選 詩	50	56
どい・よしのぶ ひさかたぶりの手紙—(アジアは互にたたかわず)—	50	53
マキ・タカシ のぶ、おまえのはじめての仕事に	53	54
まき・あきら 新しい芽	54	55
岩田清 そのひとはおあいなさらぬ	55	56
岡本重吉 おれたちはやっぱり坑夫だ	56	56
内田巖 真理の探究—レオナルド・ダヴィンチの絵について—	57	59
レオナルド 「アンナ」(部分画)	59	59
無署名 啄木祭のために	59	59

渡邊順三 日本の人民作家 II 石川啄木	60	3	64
高橋星河選 俳句	65	3	66
編集部 おことわり	66	3	66
除村吉太郎 文芸時評 作家は変わりつつある—3月号の諸作品について—	67	3	73
石原青龍刀選 川柳	73	3	74
松本正幸 町から村から 師走—三越のスト—	75	3	78
星野虎夫 町から村から B29が墜ちた	78	3	80
南沼夫 短歌 三人	80	3	80
事務局財政部 「人民文学」の財政白書—こんなに苦しいのです	81	3	81
渡邊順三選 短歌	82	3	83
藤森成吉 宮乃君の文章に関して	84	3	85
福島要一 晩年の木下尚江氏	85	3	85
無署名 国民娯楽版 ちよつと三行	86	3	86
無署名 国民娯楽版 青春航路	86	3	86
無署名 国民娯楽版 新々々炭坑節	86	3	86
古川明子 国民娯楽版 反戦トンコ節	86	3	87
無署名 国民娯楽版 かえしやんせ	86	3	86
大牟田風流グループ 国民娯楽版 文化国	87	3	87
松本亨 国民娯楽版 時事川柳	87	3	87
無署名 国民娯楽版 Pさん—落花狼藉の巻—	87	3	87
呉隆文、まつやま・ふみおえ ルポルタージュ ある日の国	88	3	97
無署名 文化短信	97	3	97
松田解子、大野碌画 地底の人々(第二部)	98	3	97
赤木健介 新刊紹介	110	3	97
人文サークル(石田仁) 他 読者だより	111	3	97
(A) 編集あとがき	113	3	97
無署名 原稿募集	113	3	97
三巻五号(通巻十八号)、本文128頁	113	3	97
昭和二十七年五月一日発行、定価八十円(送料八円)	113	3	97
無署名 表紙 ブルガリアのメーデー	113	3	97
無署名 目次	113	3	97
藤尾龍四郎 目次カット	113	3	97
事務局 (第四回発表) 人民文学基金カンパ(四月八日まで)	113	3	97
の分)	113	3	97
無署名 ルポルタージュ特集目次	113	3	97
むらた・ひろし、箕田源二郎画 暗夜を衝いて 二・二二反	113	3	97
植民地デーの記録	113	3	97
東大文学研究会、中原保男画 銀杏並木に自治の旗を—東大	113	3	97
警察手帳事件—	113	3	97
無署名 青年の植民地化反対の闘を全国民、全世界に知らせよう	113	3	97
石井藤子 軍事スパイとは何か—柴又事件軍事裁判傍聴記—	113	3	97
柏木源蔵 座りこみ斗争	113	3	97

前田喜美子	春分の日	22	今井隆	ひとこと	87
塩川潔、中原保男	練馬の表情―印藤巡查殺し事件をめぐる―	23	真谷幸介	国民の告発状	87
村山学	現地報告 北海道十勝沖地震のあと	28	朝香進一	「時事詩」射殺された白鳥警備隊長	88
窪田節次郎	現地からのたより	32	ほんだ・たつんど	時事詩集	89
原修	ダムに挑む人々	34	池田虎之助	玄海の風ふく屑鉄圧縮職場	90
陣ノ内鎮	俳句 身辺	48	うさみなおき	こん棒にささげる	91
山田順太郎	メーデー随筆 三つのメーデー	49	三輪民吉	鳥追いうた	91
富岡隆	メーデー随筆 メーデー今と昔	51	サカイ・トクゾウ	人文の詩作品（選評と回顧）	92
無署名	新刊紹介	55	編集部	自由な広場	93
マヤコーフスキー、うさみなおき	訳 太陽の旗 メーデーをたたえよ	56	岩藤雪夫	自由な広場 私はこう考える―血液のついた実印	93
真崎一男	労働者文学の前進 「日本人労働者」は反帝、労働者作品である	58	津田孝	自由な広場 作家にのぞむ―作品をもって組織せよ	95
無署名	文化短信	70	「高崎五万石」製作委員会	自由な広場 紙芝居が出来るまで	96
大木石子	啄木の歌と農村	71	酒井真右文責	自由な広場 紙芝居が出来るまで	96
渡邊順三選	短歌	72	榎本春吉	自由な広場 大野ガ原開拓団をよんで	98
岩上順一	「ファデエフはどのように」若き親衛隊「をかきかえたか	74	無署名	サークル誌紹介（1）	99
林二郎	「ハワード・ファースト」自由の道について	77	古沢太穂選	俳句	100
大牟田風流グループ	「破壊防止法治維法復活」	80	東八郎え	国民娯楽版 いざ独立の一步を！	102
無署名	「白人ギヤング」	80	三国一	国民娯楽版 新ヤツトン節	102
山岸外史	文芸時評 私小説について―四月号の雑誌から―	81	無署名	国民娯楽版 言論不自由の巻	102
		86	無署名	国民娯楽版 街頭録音風景	102
			杉本二郎	国民娯楽版 替歌（モシモシカメヨの替歌）	103

シモシ吉田さん

無署名 国民娛樂版 新版いろは論語

天野一夫え (無題)

安部公房 サークル作ろう育てよう 恋愛詩か思想詩か―壱

玉つぶやきのU君の手紙に答えて―

(サ) サークル詩雑誌紹介 サークル向上の努力

無署名 サークル誌紹介(2)

金親清、中原保男画 九十九里海区(第三回)

無署名 新タマラン節

香椎敏衛、大野碌え 脱走―パンパンと兵士のものがたり―

無署名 サークル誌紹介(3)

松田解子、櫻井陽司画 地底の人々(二部)

無署名 サークル誌紹介(4)

(A) 編集あとがき

無署名 原稿募集

103	103	103	104	104	107	108	114	115	120	121	128	129	129	129
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
103	103	103	107	107	107	114	114	120	120	128	128	129	129	129

三巻六号(通巻十九号)、表紙「メーデー特集 独立への怒濤」、

本文132頁

昭和二十七年六月一日発行、定価八十円(送料八円)

藤尾龍四郎 表紙

箕田源二郎、大野碌 カット

無署名 目次

無署名 特集 独立への怒濤

1	2
〃	〃
1	4

無署名 (詩)

無署名 (特集目次)

無署名 独立への怒濤 人民広場血の弾圧

無署名 新緑にこだまする歌声

清水幾太郎 日本の独立と世界平和のために―一九五二年メーデーへのあいさつ―

無署名 みんな集れ! (会場で撒かれた詩)

無署名 人民広場へ! 人民広場へ!

松田解子 乙女へ

無署名 突破する力

あらい・いさむ (短歌)

無署名 騒擾の罪はだれか? 某高校女子生徒の手記

無署名 断ちきられた鎖

山崎達志 民族の叫びを太鼓にこめて

無署名 たちきられたくさりと血のかなしみ 殺された高橋

正夫君にささげる

無署名 怒は炎ともえて

無署名 手にもたなかつた石

無署名 握りあう手

無署名 われらは勝利した

無署名 病院の廊下で

三浦郁雄 虐殺の午後―この目撃をわれらの斗いの糧として

|

深尾須磨子、秋田雨雀、赤岩栄、丸木位里、布施辰治、黒島

33	33
〃	〃
33	33

32	31	28	27	26	24	23	18	17	16	13	12	10	10	9	8	6	5	5
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
32	31	31	27	27	25	23	22	17	16	16	13	12	11	9	9	7	5	5

們 文化人の声	34	野間宏 読書案内「人間のしるし」	66
無署名 爆発した占領への不満 世界各紙のメーデー事件論	34	古沢太穂選 俳句	68
調	35	石原青龍刀選 川柳	70
松川晴二 これがだまつていられるか 始めてメーデーに参	35	西尾章 文芸時評 現実にふれた作品の群—五月号の作品に	71
加して	36	ついで—	72
石田幹雄 訪問記 警官に殺された近藤巨士君 ^{ひろし}	36	古沢太穂 国土	72
近藤アツ子 (短歌)	37	無署名 川柳	76
運送屋 街の声 職場の声 手錠をかけてなぐつて(被害者)	38	編集部 自由な広場	76
植字工 街の声 職場の声 警官の暴力に負けるな	39	春日正一 自由な広場 最終判決の後で	77
クリーニング屋 街の声 職場の声 自動車を焼かなければ	41	土方鉄 自由な広場 小説「淵」について—部落問題に対す	77
伊豆公夫 時評 破防法と血のメーデー	41	る正しい理解を—	79
小澤清、赤木健介、野間宏、山岸外史、堀田善衛、徳永直、	42	宮乃宇良夫 自由な広場 『犬と泥坊』などに関して藤森さ	81
石井藤子、藤田孝美 座談会 インテリゲンチヤへの期待	43	んへ	83
—堀田善衛氏をかこんで—	44	藤森成吉 自由な広場 批判に答える	84
糸野つぎ子 織工のおもい	44	編集部 自由な広場 編集部から	84
河田良三 細菌戦に抗議する 赤痢菌の歌	56	松原健二 盃の話	85
岡田芳彦 労働者の国際連帯のために 北京の五月は晴れわ	56	無署名 文化短信	91
たり—中国の兄弟たちに—	57	三町半左 連載マンガ ブンサン メーデーの巻	91
洪寧、サカイ・トクゾー 訳 同志よあくまで斗え—「松川事	60	渡邊順三選 短歌	92
件」の無実な二十名の被告たちに—	61	滝崎安之助 芸術の効果ということ—新日本文学会の討論に	93
野村忠 読書案内「真空地帯」	62	ふれて—	94
徳永直 読書案内「作家への手紙」	63	牧健介 《農民小唄》「やらざなるまい」	99
	64	無署名 国民ごろくばん 日本独立放送局	99
	65	石橋二郎 国民ごろくばん 人民都々逸	100
	66		100

石橋二郎	国民ごらくばん	人民小唄	100
東八郎	国民ごらくばん	こんなところまで来るやつら	101
石橋二郎	国民ごらくばん	時局短歌	101
元田斗志	カツト		101
住谷春也他	読者だより		102
さいとう・ゆき	短歌	病院から―獄の同志をおもう	102
潮田春苑	俳句	二十三回メーデー	104
齋藤利雄、山崎郷画	春浅き夜		104
事務局	人民文学基金カンパ (第五回発表)		105
金親清、中原保男画	九十九里海区 (第四回)		117
(A)	編集あとがき		117
無署名	原稿募集		118
三巻七号 (通巻二十号)、本文128頁			133
昭和二十七年七月一日発行、定価八十円 (送料八円)			133
藤尾龍四郎	表紙		132
無署名	ミンゾクカイホーカ		133
無署名	人民文学基金カンパ (第六回発表)		133
無署名	目次		133
新居広治	目次カット		133
無署名	民族解放の歌		133
高橋正夫	いのちのき 生命記		133
無署名	心から		133
青木修三	高橋君のこと		4
むらやま・たかし	山の上		12
江口渙、小口一郎画	雀の宮 予備隊風景		13
金親清	金親清詩集「永遠の凱歌」の読者に!		20
無署名	第二の詩歌集「平和のうたごえ」に作品を募る		20
駿河三郎	底に敵意をひめて―富士山麓軍事基地―		20
編集部	富士山を返せ		21
名古屋学生救援会	銃声とどろく大津橋事件―名大生十名検		21
挙の真相―			25
山川亨 (正しくは山川亮)、大野碌え	鉦山 ^{やま} の人たち		31
赤木健介	国民文学の統一戦線について		37
蔵原惟人氏批判			38
編集部、V・ヒルスカ、栗栖継訳、徳永直	国際文学通信		47
山脈や海原を越えて―「妻よねむれ」と小林多喜二研究―			48
夏川令三	時評 偉大な五月一日―菊池章一「独立の証言」		49
などの考え方―			50
まつだ・あきら、宮崎ひろし	アジアにひろがる民族解放の		52
文学			53
編集部	アジアに平和を!―アジア太平洋平和会議への期待		53
無署名	中華全国文学芸術連合会から人民文学社へ		56
渡辺順三選	短歌		64

古澤太穂選 俳句	66	67	YYグループ 国民ごらく版 親の仇	94	94
無署名 ニュース 破防法とたたかう文学者	68	70	無署名 国民ごらく版 「富士山頂演習地化」	94	94
梅崎春生(談) 労働者と文化人の結合を	68	69	無署名 国民ごらく版 「虫へん景気」	94	94
北民彦 パプロ・ネルダー平和と民族解放の詩人—	71	73	天野一也 国民ごらく版 墓穴を掘る	95	95
パプロ・ネルダー きこりよ、目をさませ—その一節	72	73	無署名 国民ごらく版 川柳	95	95
無署名 全国に芽生えるサークル協議会 サークル通信	74	75	YYグループ 国民ごらく版 「借家問題続出」	95	95
石黒米治郎 文芸時評 ひたすら生活を掘りさげよう	76	80	桑原宏 美術 平和美術展を見る	96	96
片倉照男 うちつづく夜に	80	80	松田解子、櫻井陽司画 地底の人々	97	105
無署名 「人民文学」誌名改題 懸賞募集	81	81	高橋イツ子 おばあさん—操短で帰郷して—	105	105
無署名 それでも座っているというのか!—早大事件—学	82	83	松本正幸、大野碌え 連結手	106	110
生の詩	82	83	熱田五郎、箕田源二郎画 ひと足	111	123
タバタ テル あの日を二度とくり返すな	83	84	無署名 サカイ・トクゾー氏を救え!	123	123
長谷川義二 一枚の札は	84	86	金親清、中原保男画 九十九里海区	124	128
いぜき・みちお ある少女えおくる歌	86	86	(A) 編集あとがき	129	129
ひの・まさし 青むしろ	86	87	無署名 原稿募集	129	129
岡本重吉 おれらのメーデー—あるちいさな炭礦で—	87	88	三巻八号(通巻二十一号)、表紙「祖国は戦いの中に—基地抵	129	129
深井三木夫 一本のボルト	88	88	抗グループ座談会「戦争か平和か 日本と中国と朝鮮の	129	129
宇田禮 読書案内「引力」	89	89	表情」本文128頁	129	129
藤森成吉 読書案内 天才への道	89	90	昭和二十七年八月一日発行、定価八十円(送料八円)	129	129
松田解子 読書案内『ソヴェト文学史 II』	90	90	藤尾龍四郎 表紙(工場風景)	129	129
岩上順一 読書案内「死の谷を行く」	91	91	無署名 目次	129	129
赤木健介 読書案内「かもめ」と「私の人生論」	91	92	箕田源二郎 目次カット	129	129
三町半左 れんさい ブンサン	93	93	無署名 声明 破防法はできたが—たたかいはこれからだ	129	129

無署名	小説	ルポルタージュ	評論	コンクール	-4	4	石田仁	鋼鉄にいどむ―八幡製鉄の愛国斗争―	43	47
国際写真通信提供	グラビア	朝鮮	-3	-2	朝香進一	たゝかう前進座	48	54		
国際写真通信提供	グラビア	日本	-1	-1	中村梅之助	「俊寛」まかりとおる	48	52		
日中友好協会提供	グラビア	中国	0	0	から	前進座北海道斗争の中	48	52		
小川銃	平和音頭		1	1	中村翫右エ門	前進座全同志諸君へ	52	53		
伊藤一、田中政子、西村玲子、大田順治、乾弘、佐藤文雄、					無署名	抗議送り先 告発者	53	53		
原田利光、柴田一彦、編集部司会	祖国は斗いの中に	基	2	11	無署名	映画になる「真空地帯」	54	54		
地抵抗グループ座談会					無署名	多摩川畔の大平和まつり	54	54		
無署名	「石つぶて」の詩の抜		10	10	除村吉太郎	講座 文学における言葉について	55	60		
島俊一	神奈川で発行されたガリバン刷りの「日本人労働者」				真知子	詩 愛	58	58		
の表紙版画			11	11	ひがし紘平	反抗―福岡県高松一坑―	61	61		
田宮虎彦	平和への発言	八月十五日	12	13	新郷宏	臨時工のうた	62	63		
木下順二	平和への発言	平凡な感想	13	14	長部舜二郎	みどりの学園よ	63	63		
淡徳三郎	平和への発言	平和のためのレジスタンス	14	15	大谷竹雄（大谷竹山）、山崎郷画	時代小説 渡良瀬川の義人	64	81		
許南麒	平和のための団結と斗いの日に――一九五二年六月				第一部	逆流に竿さすもの	64	81		
二十五日朝鮮解放戦争二周年記念東京大会によせ			16	19	無署名、香椎敏衛、関英一	破防法粉碎 反ファツシヨ「文	82	83		
山岸外史	富士よ怒れ	富士山麓現地調査報告として	20	32	化の夕」への弾圧		82	83		
大野加代	富士		25	25	河村まさ子	スケッチ 宝塚紀行	84	86		
赤木健介	短歌	富士よ 大和よ	32	32	佐藤久良子	スケッチ おかみさんの死	86	89		
深川宗俊	ひろしまその後	原爆からふたたび軍都へ	33	37	無署名	全国学生詩集について	88	88		
野木たかし	祝日本共産党三十週年		37	37	池田久子	初夏	89	89		
石野健吉	ゆらぐ銅山「足尾」		42	42	無署名	国民ごらく版 ごぞんじかえ歌コンクール	90	91		
無署名	（訂正）		42	42	無署名	国民ごらく版応募規定	90	90		
					養志	国民ごらく版 川柳	91	91		

古澤太穂選 俳句	92	太平洋平和會議にさいして平和をのぞむすべての友と誓う	2	3
渡邊順三選 短歌	94	松山繁 平和の鳩とともに モスクワから北京へ 旅行見聞記	4	18
瀧崎安之助 二つの反戦文学―『真空地帯』と『野火』について―	96	福島要一 「全面講和条約」調印のチャンス 九月・北京でひらかれるアジア太平洋平和會議	18	19
山田清三郎、おおの・ろく画 ウズベクの娘	101	伊藤吉太郎 ある午後のあるこび―在中国の同胞の便り―	20	21
三太 川柳	103	三国一 祝日本共産党創立30周年 徳田書記長に捧げる	22	23
津々美真一郎 唇に歌を掌に怒りを	108	人民文学大阪友の会 シュピレツヒコール 北摂の炎	24	25
高田糸子 おつ母ア	110	野間宏 国民文学について	26	35
長淵芳麿 梅雨	110	新島繁 政治決戦の秋―さきごろの私の体験から、来るべき総選挙のために―	36	40
岩倉政治、箕田源二郎画 続 大野ガ原開拓団	111	ルイ・アラゴン、小内原文雄訳 危機に立つ祖国 ジャック・デュクロに	41	44
無署名 人民文学基金カンパ (第七回発表)	127	荒正人 民話について	45	50
無署名 原稿はこんな風に書いてください―投稿される方たちへ―	128	無署名 予告 増頁刊行	50	50
無署名 編集後記	128	陳孝敬 いつまでもくるしみがつづくのではない	51	51
		金就楫 ぶた―帝国主義者に―	52	52
		陳孝敬 小さくとも 正しいものは つぶれない	52	52
		さいとう・ゆき スパナはこわれた	53	53
		武田久 身体を鍛えておけ	54	54
		さきのかずこ 私は信じる 強いあなたを (妻の詩)	54	55
三巻九号 (通巻二十二号)、表紙「モスクワから北京へ 松山繁」				
「国民文学論 野間宏」本文128頁				
昭和二十七年九月一日発行、定価八十円 (送料八円)				
中野秀人 表紙 (ガラス工場)				
無署名 目次				
スズキ・ケンジ 目次・カット	-2			
スズキ・ケンジ 目次・カット	-2			
小川銑作詞、須藤五郎作曲 平和音頭・民族解放の歌	0			
スズキ・ケンジ 栃木の平和うちわ	1			
人民文学社 指からこぼれる砂であつてはならない―アジア	1			

[illegible]

安部公房(司会)、梅崎春生、新島繁、猪野謙二、西郷信綱	座談会	日本文学の中心課題は何か	1	15
人民文学社	愛国と売国のたたかいの中で	16	17	
郭沫若	日本人民への公開状 アジア・太平洋会議開催をまえに	18	24	
松田解子	読書案内 『ゲリラ』	24	24	
瀧崎安之助	再軍備と国民精神	25	29	
田中修三	医療班の歌(その二)	28	29	
無署名	前進座だより	29	29	
人民文学編集委員会	総選挙に際して文学者文化人労働市民に訴える	30	31	
伊豆公夫	ずいひつ 選挙区	32	33	
無署名	平和のうたげ アジア太平洋地域平和会議開かるー	33	33	
文学者三代表を派遣ー		33	33	
新島繁	国民文学の発展方向ー議論から運動へー	34	38	
無署名	お詫び	38	38	
神山彰一	解説、許南麒詩 国民文学の一試石 巨済島	39	43	
無署名	文学関係の立候補者にカンパを!	43	43	
イー・ルヴォヴァ	宮木春也訳 徳永直の小説についてーソ	44	49	
ヴェト文学一月号掲載の批評ー		44	49	
野口肇	読書案内 新中国の基礎知識	49	49	
古澤太穂選	俳句	50	50	
まえだ	こおいち 自由な時間(獄中で三カ月目に)	51	52	
椿正康	日本の旗	52	53	
中村信司	警鐘を乱打せよ	53	54	
ヨーコ・オートリ	掌の歌ふたつ(夫え)	54	54	
鳳真治	掌の歌ふたつ(妻え)	54	55	
(K)	(選後に)	55	55	
渡辺順三選	短歌	56	57	
徳永直	人間をかくことについて	58	63	
無署名	映画トピック	63	63	
無署名	サークル 国民的な文学の創造をめざしてー北海道文学者集団発足すー	64	67	
(サカイ)	サークル、そして集団 名古屋、大阪北、北海道の詩の動き	64	67	
岡亮太郎	レトリック・トリック	67	67	
野間宏	読書案内「ことごとくの声あげて歌え」	68	68	
花岡次郎	読書案内「白頭山」	68	69	
松田解子	読書案内「声なきバリケード」	69	69	
無署名	コンクール 小説・評論・ルポルタージュ	69	69	
加藤佳郎	映画 その声をたやすな「原爆の子」を見たあとで	70	71	
半田義之	遠藤てるよ絵 童話 駅長とカメ	72	79	
藤森成吉	二人の見たもの(一幕)	80	87	
無署名	「文連協」を結成	87	87	
岩倉政治	みた げんじろう画 続 大野ヶ原開拓団	88	98	
須間純	どかつしやん(日雇い)	99	105	
いしい・こう	俳句 五・三〇	105	105	

香椎敏衛 何処へ	106	杉浦明平 国民文学私論	26
人民文学社 人民文学合本出来!	113	無署名 なかまたちよ、今日もまた……—9月のサークル誌	34、45
山川亨他 読者だより	121	・投稿作品から—	35
高橋元弘、野間宏、岩上順一 最近の小説欄から	122	無署名 ハリツケにされた祖国	35
(2)	123	米田登 砂ひとにぎり放すもんか	35
無署名 短信	128	無名氏 ドレイ食—軍事基地羽田—	36
無署名 編集あとがき	129	無署名 この美しい花の咲くかぎり	38
		石二 職業安定所	38
三卷十一号(通巻二十四号)、表紙「創刊二週年記念躍進号」		民庄太郎 もう一度その旗を持たせてくれ	39
本文188頁		八目女十 うすば	39
昭和二十七年十一月一日発行、定価一〇〇円(送料十二円)		磯村英樹 こいびとよ	40
新居広治 表紙		阿部文男 堤を渡る五月の風が—東北毛織金町工場と他の多	40
無署名 目次	2	くの日本中の東北毛織に—	40
鈴木賢二 目次カット	2	無署名 歌ごえはますますたかく	41
無署名 芸術コンクールや作品交換で促進 アジア太平洋平	3	甲吉 警察予備隊朝鮮出兵	41
和会議文化交流にかんする決議	4	メーデー被告荒川署四四番 四四番の母	43
人民文学編集部 原稿募集 小説 評論 ルポ	4	江木タツミ 歌	44
イ・スターリン、清水邦生訳 もつと謙遜に 同志デミアン	4	(K) 外国文学通信 アメリカ	45
(同志ベードヌイへの手紙の抜萃)	6	文章五 基地工作隊—ある隊員の報告から—	46
除村吉太郎 スターリンのベードヌイへの手紙について	10	石原青竜刀選 川柳	57
野間宏 最近の創作論について—実践と創作の環—	11	遠山茂樹 雑誌「自由の旗のもとに」批判 看板は正直であ	58
江口寛 集団と個人	14	つてほしい	59
林尚男 文化集団と創作	19	乾孝 チャリ—チャプリンの芸術	59
	23	安藤彦太郎 喜 <small>シリアル</small> 児ものがたり白毛女	61
	25		63

広末保 文芸時評 人間との対決	64	68
宮崎ひろし 魯迅芸術学院について	69	76
中村翫右衛門 日本の皆さんに アジア太平洋平和会議より	77	77
あいさつ	77	77
伊藤吉太郎、中山亮一、伊藤登美子 在中国の同胞よりの便り 于さん	78	81
無署名 読者のみなさんへ！	81	81
神山彰一、入江つとむ、野間宏、広末保 座談会 文学と思	82	97
想の改造	82	97
無署名 人民文学 12月号予告	97	97
野間宏原作、みずさわ ひろし絵、さかざき つねろう文	97	97
絵ものがたり 真空地帯	98	105
藤川健夫 読書案内 アメリカ アメリカ人	106	107
石黒米治郎 読書案内 日本 文学の探求	107	108
能智愛子 読書案内 日本 静かなる山々	108	109
宇田礼 読書案内 中国 AQ正伝	109	109
無署名 人民文学 合本	109	109
熊王徳平 生れかわった男	110	132
無署名 詩を書いて全国民に訴えよう！ 国民救援会から	132	132
古澤太穂選 俳句	133	133
渡辺順三選 短歌	134	135
ましま・てつじ 再婚	136	143
編集部 おねがい	143	143

古野雅美 落日の子	144	157
輝旗信治 山を守る人々	158	177
岡本勉 蠅とレジスタンス	168	177
あさはら・こうじ 山林労務者	178	188
無署名 編集あとがき	189	189
三巻十二号（通巻二十五号）、表紙「小説」「静かなる山々」をめぐって……安部公房 木曾弥一 現地調査（編集部）	189	189
「流人 長篇第一回 江馬修」本文180頁	189	189
昭和二十七年十二月一日発行、定価一〇〇円（送料八円）	189	189
藤尾龍四郎 表紙（北多摩の冬）	189	189
大野碌 カット	189	189
「人民文学」詩委員会 詩の国民運動を起そう——「人民文学」創刊二周年にあたって——	189	189
無署名 目次	189	189
人民文学編集部 鹿地亘を救え！	189	189
編集部 『人民文学』当面の課題——創刊二週年にあたって——	189	189
木曾彌市 「静かなる山々」によせて——党員作家のありかた	189	189
編集部記者、林尚男、東竹雄文責 事実と小説——静かなる山々 現地調査——	189	189
安部公房 「静かなる山々」をめぐって	189	189
小関茂 歌の道と党の道と	189	189

津々美喜一郎	現実を書くということ——人民文学十月号所載	29	30
「何処へ」に関して——		29	30
(K) 外国文学通信	イギリス	30	30
編集部	明日のサークルのために	31	39
真谷幸介	詩人集団の組織と創作(抄)——新潟詩のなかまの	31	34
一年の運動の中から——		31	34
東京南部文芸工作者集団	新しい人間像をどうえがかくか——徳	34	39
永直氏の論文にたいする意見——		34	39
古川宏	新しい人間像をどうえがかくか——徳永直氏の論文にた	34	39
いする意見——		34	39
一読者他	読者のたより	40	41
編集部	『人民文学』を農村へ送ろう	41	41
無署名	読書案内 レ・コミニスト	42	42
栗林農夫	目に見えない目——岐阜第二区をめぐつて——	43	46
伊豆公夫	新しい経験——候補者の報告——	46	49
李泰俊	文化と野蛮人——アジア平和会議の演説から——	50	51
安東次男	許南麒と叙事詩 詩集「巨済島」を論ず	52	57
無署名	十二月詩集	58	68
岩田ようこ	《投稿作品から》あけ方に、地下の人をおもつ	58	58
て		58	58
松江大衆診療所一所員	私は看護婦です	59	60
増子正司	同志 渡辺に	60	60
安豊定子	あの人	60	61
石川冬子	《サークル誌から》夕刊売り	61	62
浜口国雄	風景	62	63
岩井哲郎	ケンジとサワコ	63	64
林影	あの旗をおろして下さい——再び国旗の上る日に——	64	64
もとね・しろ	う 起床ラッパ	64	65
小野友吉	あの人	65	66
朴準熙	同志はねらわれている	66	66
高市実	エタのうた	66	68
赤木健介、花岡次郎、編集部(東竹雄)	サークル投稿 試	68	73
作品合評		68	73
新島繁	国民文学の発展方向(二)——論議から運動へ——	74	81
いぬい・たかし	回顧日本映画の一カ年	82	85
無署名	国民文学の課題——フランスの場合	85	85
小林勝	ある朝鮮人の話	86	98
黒井力	明日へ	99	124
無署名	人民文学新年号予告	124	124
樋口武和	全滅	125	136
鄭泰裕	戯曲 島の人々 一幕	137	147
江馬なかし	流人(るにん)	148	180
無署名	編集後記	181	181
四巻一号(通巻二十六号)、表紙「新年号」	本文182頁		
昭和二十八年一月一日発行、定価一〇〇円(送料八円)			

桜井陽司	表紙：鮭	
箕田源二郎、山崎郷、大野碌、鈴木賢二、及川とおる	カッ	
ト		
無署名	目次	4
滝平二郎	目次カット	4
鹿地亘	私は訴える（全文）	6
小林勝	引越しそば	8
徳永直	そえがき	15
「平和のうたごえ」編集委員会	詩集「祖国を愛し、あなたを愛す——「平和のうたごえ」第二集刊行	15
池田誠治郎	北清掃車29	16
無署名	表紙応募作品中間報告	37
細井勇	師走	37
西山梅雄	晩酌	38
いぜき・みちお	十二月十二日	43
高玉宝	宮崎ひろし訳 村の泣声	44
鈴木信、浜崎二雄	松川だより	52
岩倉政治、箕田源二郎画	続 大野ヶ原開拓団 完結篇	53
相馬よし子	相馬ガ原基地農村ルポルタージュ その人たち	75
の怒り		75
江馬なかし	流人（第二回）	88
無署名	住所変更	102
花園次郎	平和の巨歩—北京からウィーンへ—	103
		107
松山繁	揚子江上の歌	108
西山勝己	山はおれたちの故郷—日炭高松たより—	111
渡辺順三選	短歌	114
松田解子	メーデー公判と「静かなる山々」によせて	116
無署名	外国文学通信—中国—最近の日本の文学運動について	122
菊池謙一	黒人の血の一滴	123
無署名	人民文学2月号予告〈労農詩歌運動特集〉	128
古澤太穂選	俳句	129
石川文子	兵士作家高玉宝の物語	130
石川湧	文化の最低線から	132
森武郎	読書案内 占領下の日本	132
岩上順一	作品評 「何処へ」について 国民からはなれて	133
何処へ		135
三木比呂志	作品評 「何処へ」について 生きる文学を	133
無署名	もうこんな石を抱くまい—一月詩集—	138
あかしごろう	【投稿詩から】一つの石のものがたり	138
古林尚	「お茶の水」駅前	139
ほうじょ	てるお 死んだらあかんと言うのに	140
石本かずえ	セーター	141
井上俊夫	火炎ビン—A君I君T君S君にささぐ—	142
槇新太郎	パン喰い競走	142
北輝男	あの音—新中国建国三周年によせて	143
		143

ひやまえたろう (サークル詩から) 一つの花輪をあむため
に——獄中で闘う北京メーデー日本代表団に捧ぐ

北原れい たたかいのかげに

加川治良 板金工

人民文学詩委員会 作品と読者——月詩集詩作品評——

武田泰淳 作家の立場から 「静かなる山々」について

「人民文学」編集部 多喜二祭を準備しよう

徳永直 『なぜ書けぬか?』の問題

神山彰一 労働者作家の成長によせて——文学大衆コースにおけるひとつの根本問題——

(S)、(U)、(J)、(M) 映画『真空地帯』をみて

日本近代文学史研究会 日本の近代文学史 その一

草部典一 担当 日本の近代文学史 その一

木島始 外国文学通信 アメリカにおける「書物の闘い」

化学太郎他 読者だより

小林勝 獄中から

(U) 編集あとがき

四巻二号 (通巻二十七号)、表紙「詩特集 松川事件 (共同創作) / 労働者の詩について」「小説「基地の流れ」 春川鉄男」本文182頁

昭和二十八年二月一日発行、定価一〇〇円 (送料八円)

中谷泰 表紙 (北国の街)

無署名 啄木祭の準備を始めよう

無署名 お礼

無署名 目次

新居広治 目次カット

無署名 人民文学 基金カンパ (第八回発表)

多喜二研究会、除村吉太郎、岩上順一文責 小林多喜二小論

春川鉄男 多喜二についての感想

いその・ありひで 多喜二の死——やがて輝く旗を信じて——

人文詩委員会 人民文学詩委員会より

レエジイ・ベルジュロン、小内原文雄抄訳 アンドレ・スチールは批判する

千代田詩人集団 共同創作 叙事詩 松川事件

無署名 松川ニュース

無署名 「特集」労働者の詩について

深尾須磨子 労働者の詩について

大島博光 詩はすべてのひとによつてつくられなければならない

人民文学社 人民文学合本

中野秀人 詩の前衛的役割

関根弘 コスモポリタニズムに対する闘い

岡本潤 詩の調子とコトバ

45 43 42 41 40 39 38 25 20 19 17 15 8 6 4 3 3
3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3
46 45 43 41 41 40 38 38 24 19 19 16 14 6 5 3 3

高島洋	反戦平和と詩作	47	西杉夫	二年はいているズツくづつ	94
小野十三郎	ゆるぎなき精神の秩序	48	江藤徹	十円位でドレイになれるか	95
野間宏	体験の質	49	石田ゆたか	寒い風景	96
サカイ トクゾー	若い元気な詩人との三日間(詩作問答)	51	くわむら・こう	真紅のカーネーション	96
無署名	人民文学3月号予告	52	海野なるみ	恨む二九度線	97
ポール・エリュアール	木島始訳	55	井之川巨 君、めざしよ		97
木島始	エリュアールの死を悼んで	56	片羽登呂平	党本部の屋根の赤旗	98
林和	許南麒訳	57	古澤太穂選	俳句	99
艾青	宇田禮訳	58	渡辺順三選	短歌	100
(U)	海外文学通信	60	境野みち子	子守唄について	101
福田律郎	一人の労働者と詩―詩が書けなくなつたというこ	62	石原青竜刀選	川柳	102
とー		62	上杉捨彦	時事問題	103
赤木健介	国鉄とその詩人たち―産業別労働組合めぐり	63	なわみちお、久野和	鹿地・炭労・電産	104
(1)		67	島田政雄	鹿地亘のこと	105
無署名	文学新年会お知らせ	73	安部公房	野間宏、真鍋呉夫、岩崎昶、戸石泰一、草野心平、	106
須藤伸一	同人誌	73	岩上順一、青山光二	座談会	109
石垣りん子、岡亮太郎、鶴飼礼子、赤木健介、許南麒	座談	74	て	映画「真空地帯」をめぐつ	110
会 職場と詩		79	藤川健夫	外国文学通信	111
無署名	2月詩集	80	無署名	「静かなる山々」プラウダで高く評価さる	112
金龍楫	アメリカ兵	80	岩上順一	宮本百合子の生涯と文学	117
荻原花子	ゆきずりの兄弟へ	91	近代日本文学研究会	日本の近代文学史 II	119
高島洋	風景	91	春川鉄男	基地の流れ(一)	120
谷川みどり	小さな要求	92	マーグリット・ライナー	藤川健夫訳	128
		93		平和請願	134
		94			149
					158

無署名 叙事詩「松川」制についての補

158
158

江馬なかし 流人(るにん)(三)

159
158

本田実他 読者だより

180
182

(H)、(U) 編集あとがき

183
183

四巻三号(通巻二十八号)、表紙「ルポルタージュ・炭鉱・熱

田五郎・松田解子／電産・相馬よし子・中藺英助」「地

主の学校(小説)加島重作」本文182頁

昭和二十八年三月一日発行、定価一〇〇円(送料八円)

内田巖 表紙

新居広治、大野碌、飯島俊一、山崎郷、箕田源二郎、小口一

郎 カット

無署名 目次

4
5

飯島俊一 目次カット

4
5藤森成吉、野間宏 『人民文学』後援会の出資証券発行につ
いて6
6

熱田五郎 ルポルタージュ 炭鉱 怒りは根深く 北海道夕

8
17

張炭礦

8
17

松田解子 ルポルタージュ 炭鉱 常磐をささえるもの

18
29

小野英 平山炭礦の激励デモ―嘉穂労組前広場で―

24
24

箕田源二郎文え 鉱山のスケッチ

30
33

中藺英助 電産ルポルタージュ 若き電源労働者―伊那谷の

34
43

電産闘争現地報告―

34
43

升内義夫 雨のピケットライン

41
41

相馬よし子 電産ルポルタージュ あるボイラーマン

44
54

無署名 海外文学短信(朝鮮)

54
54

徳永直 「生産面をえがく」について

55
62

イ・リヴォヴァ、藤川健夫訳 「ハコネ用水」論―日本の進

63
67

歩的文学の力作―

63
67

無署名 イギリス映画産業は危機 ハリウッドに押され

67
67黄^{ホアン}谷^{クウ}柳^{リウ}、島田政雄訳 特別寄稿 海も山も阻みえない68
71

―日本の「人民文学」に寄せる―

68
71

イリヤ・エレンブルグ、編集部記者訳 平和の大河は小さな

72
79

流れから

72
79

松山繁 読書案内 中国の赤い星

79
79

上杉捨彦 社会時評 ことばの魔術

80
83

井上知恵子 のびのびと勉強し遊んでいる 瀋陽の日本人小

83
83

学校・日教組へ便り

83
83

無署名、浜崎二雄、本田昇 松川だより

84
85

堤真砂 わたしには出来ない

86
87

小松原徹 老婆

87
88

井上俊夫 或る個室の僚友に

89
89

中村信司 失業

90
90

椿正康 岩のくぼみの水たまり

91
92

人文詩委員会 人民文学詩委員会より

92
92

戸塚署三十二番 天プラ―とらわれている若者達のすべて

92
92

の母へ

安東次男、岡亮太郎、こばやし・つねお 選後に

松田解子 日本の女 往復書簡 山代 巴さまへ

山代巴 日本の女 往復書簡 松田解子さま(第一信)

中村翫右衛門 ふるさとを遠くはなれて

吉澤和夫 嫁とおならのはなし―民話のはなし―

無署名、かとうよしこ、長谷川匡史、清野進、たなべちさこ、

いとうかつえい、大竹直子、いとうけんきち おれたちの

くらし 詩と版画

岩倉政治 人民の友とは―きだみのる氏と農民文学―

福田律郎 糸を紡ぐ歌

無署名 原稿募集規定

猪野健治 共通の欲望

金田明夫 アメリカの女優

木村露子 月賦のラジオ

岩上順一 宮本百合子の生涯と文学(下)

無署名 予告 人民文学4月号 小説特集号

日本近代文学史研究会 日本の近代文学史 III 浪漫主義

岡田よし子 モスクワにて

長田時子他 読者だより

アンナ・ゼーガース、藤井透訳 代議員の娘

加島重作 地主の学校

春川鉄男 基地の流れ(第二回)

(U)、(竹)、(H) 編集あとがき

無署名 文学の友の会・サークルを作ろう

四巻四号(通巻二十九号)、表紙「小説特集号」本文182+8=190

頁(末尾に「総選挙のための附録」あり)

昭和二十八年四月一日発行、定価一〇〇円(送料八円)

吉井忠 表紙

鈴木賢二、吉井忠、箕田源二郎、佐藤和男、櫻井陽司、大野

碌、吉田太郎、河尻隆次 カット

無署名 目次

新居広治 目次カット

藤森成吉、野間宏 『人民文学』後援会の出資証券発行につ

いて

小口一郎 扉

半田義之 春の花輪

無署名 文化短信 朝鮮人学校連合文化祭開かる

はやし・かずお 続家具屋のエエナさん 第二話 軍需道路

をつくらせるなの巻

編集部 お断り

編集部 誤植訂正

赤城さかえ 病舎抄

無署名 原稿募集規定

近藤汎こそ泥棒

183 183 175
183 183 182160 148 144 143 138
174 159 147 143 143137 128 127 126 126 125 116 110
137 137 127 127 126 125 115 111105 104 99
109 104 10341 40 40 39 39 24
57 40 40 39 39 3923 8 7 6 4 4
23 23 7 6 5 5

182+8=190

人民文学編集委員会、徳永直文責	世界平和の旗じるしスタ	58	59
ーリン			
大谷竹雄、山崎郷え	時代小説 渡良瀬川の義人 第二部	60	74
そのあとにつづくもの			
木原速夫	キリストの洋服	75	88
春川鉄男	基地の流れ (第三回)	89	96
徳永直	サインをする話	97	106
無署名	お知らせ 東京南部の「獄中の手紙、手記、詩集」について	106	106
李泰俊、朴元俊訳	高貴な人達	107	114
マーチン・アブザグ、藤井透訳	一番いい女	115	125
佐々木忠	薪伐り屋	120	120
創作研究会	創作研究会お知らせ	125	125
安部公房	文学運動の方向	126	132
朴元俊	在日朝鮮文学大会 (報告)	133	133
山代巴	往復書簡 日本の女 (第二信) 戸と敷居のこと	134	138
無署名	人文詩委員会機関誌 詩運動 1号発売中!!	138	138
北條さなえ	明日のサークルのために 春の流れのように	139	141
水野繁	明日のサークルのために 友達になることから—文	141	142
学サークルの一年をふりかえつて—			
小野英	明日のサークルのために こうして作つた闘争詩集	141	142
編集部、石黒米治郎、斎藤隆介、香椎敏衛、長部舜二郎、	い、よしのぶ、樋口武和、小林勝 アンケート	143	145
香椎敏衛え、大野碌文 浅草探訪			
北條さなえ	書評 屈原	150	149
赤木健介	書評 ソヴェト文学史III	152	151
小林勝	夕暮れのうた	153	153
ヤシロ・コイイチ	公共職業安定所	154	156
大阪操	お母ちゃん—ヒロシマわ小川の多い街であつた—	157	157
山田真広	床芋	158	159
編集部	御報告御案内	160	160
かのおとる	おつさん	161	162
どいよしのぶ (解説)			
安東次男、岡亮太郎、こばやしつねお、花岡文責	選者 合	161	162
評			
上杉捨彦	社会時評 日本人の日本	165	164
あかま	かつみ 愛するおれたちの線路	168	168
松田解子	最近のコンクール応募作品について—五篇の小	169	171
説をよんで			
無署名	綴子村からの便り (秋田県)	171	171
渡辺順三選	短歌	172	173
新島繁	メーデー公判傍聴記 (第三組の第一回)	174	175
島田政雄	『地底の人々』出版にさいして	176	177

鹿地亘 密囚の日々 (川崎 T・C にて)

加古里子 まんが

後藤洋他 読者だより

無署名 総選挙のための附録

人民文学社 お願い

正木 晃、井上正蔵、柳田謙十郎、岡本潤、小田切秀雄、竹

内好、玉城肇、高橋義孝、古谷綱武、本多秋五、壬生照順、

枝法、白井健三郎、淡徳三郎、野間宏、秋田雨雀、サクラ

サワ・ユキカズ (アンケート)

藤森成吉、徳永直、江馬修、除村吉太郎、松田解子、野間宏、

岩上順一、新島繁、島田政雄、安部公房、西尾章二、赤木

健介、広末保、山岸外史、山代巴、渡辺順三、福田久道、

北条さなえ、安東次男、真鍋呉夫、半田義之、サカイ・ト

クゾー、古澤太穂、春川鉄男、塩川潔、呉隆、高沖陽造、

中野秀人、熱田五郎、木島始、杉浦明平、神山彰一、柴崎

公三郎 平和と独立のために―総選挙にさいして訴える―

編集部 あとがき

(M)、(竹)、(U) 編集あとがき

四巻五号 (通巻三十号)、本文182頁

昭和二十八年五月一日発行、定価一〇〇円 (送料八円)

佐藤忠良 表紙

箕田源二郎、山崎郷、佐藤和男、大野碌、海老原友忠 カッ

ト

無署名 目次

吉井忠 目次カッ

無署名 『人民文学』友の会をつくろう

無署名 「人民文学後援会」賛成者名簿

江刷屋珪子 扉

足柄定之 鉄路の響き (第一部)

泉澤俊 釜石歌物語抄

井上俊夫 汚れた肺―サナトリウムの人々―

島田ちかし 日本復帰を

江津萩枝 死鷄

齊藤利雄 むかでママのたそがれ時に

渡邊金司、箕田源二郎画 進水の酒

野間宏 雪はおおう

無署名 五月詩集

ただし・きんだ 塗工

松原健二 君たちは知るべきだ

しげる・あさむら 父 申徳休の霊に捧げる

高島青鐘 選後に

須藤伸一 批評

サカイ・トクゾー 選外 サークル誌より

上杉捨彦 社会時評 美しいこうでん返し

人民文学社 編集部 原爆詩人 峠三吉氏逝去

阿部知二、山崎郷カッ 平和への希望

104	103	100	99	99	99	98	95	94	94	92	79	66	56	55	43	40	8	7	6	6	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
105	103	103	99	99	99	98	97	95	98	93	91	78	55	55	55	41	42	7	6	6	5	5

[illegible]

四巻六号(通巻三十一号)、表紙「長篇小説 鉄路の響き 足柄定之」	95
柄定之「朝鮮に平和を! 朝鮮文学特集」本文182頁	96
昭和二十八年六月一日発行、定価一〇〇円(送料八円)	96
曹良奎 表紙「牧童」	97
海老原友忠、中山正、山崎郷、箕田源二郎、佐藤和男、鈴木賢二、滝平二郎、新居広治、呉林俊、櫻井陽司 本文カッ	97
ト	100
無署名 『人民文学』後援会 『人民文学後援会』賛成人名簿	103
無署名 『人民文学友の会』をつくろう	104
無署名 目次	104
滝平二郎 目次カッ	106
曹良奎 表紙絵「牧童」について	107
中山正 扉	109
足柄定之 鉄路の響き(その二)	110
船越亨 二つの微笑	111
行方藤男 ピカソの鳩	113
安永守 獄中雑詠	114
片野潔 おびえのなかを	116
藤塚三郎 貧乏打破	120
人民文学編集部詩委員会 詩運動3号	121
金井広 少年整備兵	122
李泰俊、李殷直訳 故郷の途	125
朴元俊 徐令監とその一人息子	126
沖田一男 平和と真実を愛する皆さんへ	127
許南麒訳 朝鮮戦争詩抄	130
キム・ジヨギユ この人達のなかで	131
キム・サング・オ ある都市で	133
リ・ビヨンチヨル 中華人民共和国	137
無署名 労働者たちは勢ぞろいをはじめた—第24回メーデーの記録—	140
大原三郎 統制という名の実行委員会	144
徳永直 “朝鮮戦争やめろ”—拒否された—中立堅持—	146
真鍋呉夫 五月一日の霞ヶ関—中部地区デモ行進の印象—	150
中村宏 民衆は怒る—解散後のバクハツ—	159
上杉捨彦 社会時評 平和攻勢とは	160
サカイ トクゾー 平和の新たな地平線 周恩来の三月声明を受けとるわれわれ	161
信夫澄子 短歌のうごき 歌壇を中心にした現状	164
無署名 平和はいいが仕事がなくなる?	166
前田芳雄 峠三吉のこと	167
山代巴 日本の女(第四信)	168
無署名 東京の多喜二・百合子祭 大阪の多喜二祭	172
能智愛子 親子二代—「妻よねむれ」の女主人公—	175
須藤伸一 書評 「日本の貞操」と抵抗の質について	176
猪野謙二 私小説と民主主義文学	181

赤木健介 おじいさんマルクス	138
無署名 6月詩集	140
鈴木西州 鉄鉱石	140
津吉 ヤドゴ	141
稲垣元博 私は医者であるべきか	142
あかぎ・しげお 一枚の写真	144
吉村金之助 鉄条網よ	145
いしだ・みちお 土	146
萩村繁 日本の子供	148
花岡次郎 選後に	149
道家忠道 ドイツ民主共和国(東独)の文学	150
無署名 李泰俊について	153
柳瀬正三 創作「山林労働者」についての意見—小河内工作	154
隊通信—	155
木曾彌市 2頁論壇 統一をさまたげるもの—魯迅評論集を	156
よんで—	157
あかしごろう文、黒須童明え 絵ルポ マイツル	158
姉崎哲夫 松川の奇蹟	162
木村莊十二、玉城実、吉仲功、本郷新、徳永直司会、玉城実	163
座談会 新しい芸術家の為に—帰国者をかこんで—	164
鈴木盛義他 読者だより	181
(U)、(M) 編集あとがき	183
	182

四巻七号(通巻三十二号)、表紙「特集 マルクス主義と文学	
除村吉太郎・西郷信綱／ピカソの描いたスターリン ア	
ラゴン・フージュロン他」本文182頁	
昭和二十八年七月一日発行、定価一〇〇円(送料八円)	
中谷泰 表紙	
鈴木賢二、海老原友忠、中山正、大野碌、中山ユリ、曹良奎、	
山崎郷 本文カット	
無署名 おわび 七月号正誤表 (投げ込み)	
無署名 『人民文学』後援会 『人民文学後援会』賛成人名	
簿	
無署名 目次	3
井上長三郎 目次カット	3
曹良奎 扉	4
除村吉太郎 スターリン死後の文学的感想	4
ほんだ・のぼる 窓に向つて—絞首台のそばの窓で—	7
西郷信綱 マルクスの文学論—リアリズムについて—	8
関義訳 ピカソの描いたスターリン	14
編集部 まえがき	15
ピカソ スターリン	21
フージュロン他 われわれは抗議する	22
アラゴン 労働者万能主義の怪物	22
マレンコフ 資料 I 典型とはなにか?	23
モーリス・トレーズ 資料 II 新しい古典への道	26
久保田正一 小河内村の二十二票 山村の選挙斗争	34
	35
	36
	37
	41

サカイ・トクゾー	散文詩	一斉に指差す手	裁判官の頭の	42	45	大塚敬三他	(短歌)	107
中の夜と昼						大間信一	お千代さん	108
須藤伸一詩、山野卓造、福田恒太、池田竜雄え			絵ルポ	46	50	無署名	『人民文学友の会』をつくろう	111
地立川			基			足柄定之	鉄路の響き	112
一橋進	基地の横顔—私の職場から—			51	55	無署名	一人が一人の読者をつくりましょう	125
金田明夫	つながれた双手			55	55	野村欣治	(短歌)	139
谷野耿太郎	職場サークルにおける創作の課題—集団制作の			56	60	谷新助	基地の子供達(読者だよりより)	139
報告—						シヨロホフ、岩上順一訳	にくしみの学問	140
田沼肇	社会時評 「洗脳」療法のききめ			61	63	馬烽、加藤平八訳	二人の産婆	155
無署名	七月詩集			64	71	渡辺順三	短歌選後評	162
清野正秋	草履つくり—農村の女たちは今もむかしのままの			64	65	石原青竜刀	古今川柳ものがたり	163
苦しみにある—						江馬修、瀧崎安之助、編集部M記述	小説合評	164
林野滋樹	ター坊の保育園			65	66	芦田弘	“中国”その一	168
青木 聚 ^{アキラ}	「指」—文撰工ノ歌—			67	68	山畑たけお他	短歌	169
柳町京平	電気炉			68	69	岩上順一	まだ解決されていないもの—「地底の人々」を	170
鈴木西州	ダンブル(船艙)のうたごえ			69	70	ぐつて—		170
祖父江貞子	離郷			70	71	中西次郎	作男の歌	174
安東次男、古川宏、ゆうき かおる、花岡文責	選後に—擬			72	73	日本近代文学史研究会、紅野敏郎担当	日本の近代文学史	175
音・労働者の組織性の問題—						V 漱石と鴎外		179
真鍋呉夫	ルポルタージュ 筑豊炭田 (第一回)			74	78	石原青竜刀選	川柳	180
編集部	投稿原稿についてのおねがい			78	78	平野幸男	読者だより	181
小林勝	医者の家で			79	89	(M) 編集あとがき		183
はやしかずお、宮下森画	家具屋のエエナさん 第三話			90	六	無署名	三千部拡大運動の訴え	183
さんをかえせの巻				107				

四巻八号(通巻三十三号)、表紙「戦争と文学(対談) 大岡昇平 野間宏」「国民文学の課題と方法 滝崎安之助」本文	182頁
昭和二十八年八月一日発行、定価一〇〇円(送料八円)	
本郷新 表紙(ウイーンにて)	
無署名 目次	4 5
滝平二郎 目次カット	4 5
佐藤忠良 扉	7 7
滝崎安之助 国民文学の課題と方法—文学運動の新しい展開のために—	8 21
大岡昇平、野間宏、編集部 対談 戦争と文学	22 30
人民文学社 お知らせ 人民文学合評会	30 30
除村吉太郎 スターリン死後の文学的感想(つづき)	31 38
渡邊淳 フランスの作家たちは抵抗する—サルトルの場合を中心に—	39 42
伊藤永之介 農民文学感想	43 45
編集委員会、除村吉太郎執筆者 朝鮮休戦について	46 47
無署名 八月詩集	48 54
柳貞姫 祖国朝鮮からの便り	48 48
いぜき・みちお ある写真	49 49
江口寛 便所通信	49 50
盛岡ペンと自由グループ スパナの歌	50 51
志賀智之 きよちゃん	51 51
菅原克己 イ・ヴェ・スターリン	52 54
赤木健介 選後評	54 54
サークル誌をよむ会 サークルあれこれ	55 58
ヨシダ・ヨシエ ボタンをおす手 原爆の背後をつく	59 65
丸木位里、赤松俊子 原爆の図	59 61
伊達得夫文、中原保男え 絵ルポ 内灘の火は消えない	66 68
渡辺順三 砂丘のいかり	69 69
武田久 屍を越えて—ローゼンバーグ夫妻を悼む—	70 71
花岡次郎 空腹の日曜日に—ローゼンバーグ夫妻にささげる—	72 73
田沼肇 社会時評 悲しみと同時に怒りを—ローゼンベルグ夫妻の死—	74 76
無署名 定例『人民文学』読者の夕	76 76
無署名 父をかえせ、夫をかえせ—松川被告家族の訴え—	77 82
杉浦三郎 お父様が死刑!	77 78
二宮キク、本田嘉博文責 再婚の話しもけつて	78 80
齋藤あつ子 共産党をぬければ罪がなくなる	80 81
齋藤和子 さみしいけど、おるすいします	81 81
たけだ やすこ ことし、がつこおにありがとうございました	81 82
小島美代子 あの日	82 82
日本近代文学史研究会、草部典一担当 日本の近代文学史	
VI	
編集部 友の会・サークルだより新設	87 87

鈴木桂子他 読者のたより	88	89
山本洋 中間者	90	111
野田克信 日本の民話 猿の白	112	122
中西次郎 葉桜	123	123
くきもとたけひこ 弟の写真に	123	123
赤松まり訳 ロシヤ民話 あしげくりりげ	124	129
無署名 新刊紹介「国民の文学」(古典篇)	129	129
無署名 第四回世界青年学生平和友好祭 記念国際芸術コンクールについての訴え	130	130
足柄定之 鉄路の響き(第四回)	131	172
島田政雄 「北京のどぶ」をみて	172	172
佐藤精也 人文六月号の書評「日本の貞操と抵抗の質について」	173	173
大谷竹雄、小場瀬卓三、岩間正男講師、新島繁司会、村上十吉、松山映、金親清、柴田昭司、本郷一郎、島田政雄発言者 討論 浪花節をどうおもおう?	174	182
(M)、(U) 編集あとがき	182	182
四巻九号(通巻三十四号)、表紙「国民文学は何処へ行つたか 丸山静・岩倉政治／杉浦明平・比良信治」「小説 血の九月(120枚) 江馬修・日鋼赤羽の文化活動 安部公房 真鍋呉夫ほか」本文150頁		
昭和二十八年九月一日発行、定価一〇〇円(送料八円)		
井上長三郎 表紙「漁夫」		
海老原友忠、新居広治、積田鯉士、藤尾龍四郎、飯島俊一、大野碌 本文カット		
野間宏 二歩前進のために (投げ込み)		
無署名 目次	4	5
滝平二郎 目次カット	4	5
人民文学編集部 九州和歌山地方大水害についてのうたえ	6	6
藤尾龍四郎 扉	7	7
江馬修 血の九月	8	50
小溪住久画 内灘スケッチ	51	51
鹿地亘 湖北の旅	52	67
足柄定之 鉄路の響き(第五回)	68	83
アンデルセン・ネクセ、岩上順一訳 白痴	84	90
無署名 「国民文学」は何処へ行つたか—瀧崎安之助氏の論文を批判する—	91	104
丸山静 日本の現実から実践的課題を	91	97
比良信治 国民文学の母胎をいかにして強化するか	97	99
杉浦明平 主観的な論文	99	101
岩倉政治 指導性ということ	101	104
徳永直 「地底の人々について」	104	104
岡野敬二 濁流にいでむ人々—九州水害現地ルポ—	105	111
井上長三郎 表紙「漁夫」について	111	111
瀧修一 自由な討論 記録文学をかこう	112	113
野間宏 破戒 名作講座(1)	114	120

高瀬俊介 (短歌)	120
吉田豊 (短歌)	120
下村敏夫 アメリカの自由追放記	121
片羽登呂平 書評 日本部落冬物語	127
無署名 9月詩集	128
宇佐美静治 田植歌	128
小熊忠二 誕生まえ	129
三木進一郎 工場で	130
ごとう・たかお よふけ	131
今井教子 うめずけの味	132
無署名 候補作品	132
北条さなえ、安東次男、西杉夫 選後に	133
サカイ トクゾウ サークルの二側面 七月号の選後評をめぐって	134
田沼肇 社会時評 「良心的」という意味	136
人民文学社 内田巖氏を悼む	138
中村朗 水害地と内灘から	139
石谷良三、村田幸夫、古川稔、長尾修、安部公房、榎木恭介、真鍋呉夫 座談会 戦車工場と文化のたたかい—日鋼赤羽のばあい—	140
車楽生 かけ合川柳	147
福田一郎他 友の会だより 読者だより	149
(U)、(H)、(社一同) 編集あとがき	151

四巻十号(通巻三十五号)、表紙「内灘・ピカソと絵」「アメ

リカ人に与える・サルトル」本文150頁

昭和二十八年十月一日発行、定価一〇〇円(送料八円)

箕田源二郎 表紙(内灘のおかみ)

山崎郷、滝平二郎、大野碌 本文カット

無署名 目次

滝平二郎 目次カット

無署名 内灘

小溪住久 扉

内灘村接收反対実行委員会 声明書

寺田貢、岩倉政治、真鍋呉夫、松川哲雄、菊地謙一、中田ひろ子、箕田源二郎 (座談会) 内灘

無署名 内灘おいわき(追分)

無署名 内灘 ソーラン節

無署名 被害をうけた漁民の数

無署名 これまでの経過

無署名 接收反対かぞえ歌

茅盾、加藤平八訳 生活の体験、思想改造と創作実践

加藤平八 解説

松田解子 創作と工作について—中国文学工作者協会にまなぶ—

真鍋呉夫、「現在」の会 日炭高松の労働者上野鋭之進君に対する会社側の暴挙について訴える—文化活動の民主的自由

31 35

24 30

15 16

14 15

11 11

8 23

8 8

7 7

6 6

4 5

4 5

を守るために――	35	35、73	宮部八重 夏蜜柑	60
徳永直 鈴木裁判長よあなたの任務は重い！	36	36、40	北原れい 選後評にかえて	62
ピカソ 『戦争と平和』より	36	36	サカイ 寄稿の長詩について――我々は前進している――	63
ジャン・ポール・サルトル、高木正一訳 アメリカ人に与える	41	44	林克也 日本の人身売買	64
沢まや子 書評 江馬修の「流人」を読む	45	45	金親清 浪曲とリアリズム	70
無署名 ピカソと絵	46	50	サークル誌をよむ会、岩上順一、塩川潔、山岸外史、森春夫、	74
エレンブルグ ピカソと平和	46	48	東竹男文責 サークルの歩み	77
ピカソ 『戦争と平和』	47	47	群馬勤労者集団、さかい文責 幻灯作の出来るまで――高崎五	78
クロード・ロワ パブロ・ピカソの《戦争と平和》――ロー	48	50	万石騒動――	79
マでのピカソ展	48	50	徳永直 かたむいた屋根の下で	80
ピカソ 「戦争と平和」	49	49	山田清三郎 二人の青年	91
無署名 「ピカソの描いたスターリン」とわたしたちの問題	51	56	足柄定之 鉄路の響き（第六回）	108
新居広治 ピカソを育てる人たち・労働者	51	54	秦 兆 陽、宮崎ひろし訳 相思樹	120
井上長三郎 写真でかいたスターリン	54	55	日本近代文学史研究会、杉伸子担当 日本の近代文学史	146
海老原友忠 私の中にもある労働者万能主義	55	56	無署名 表紙説明 内灘のおかか	147
編集部 おわび	56	56	酒井真右 サークル指導を正しい軌道にのせよ	148
海野猛雄 落下	57	57	川野他 読者だより	149
佐々木忠 開拓のうた	57	57	徳永直、野間宏 日本文学学校設立趣意書	150
安東次男、片羽登呂平、北原れい選 十月詩集	58	61	黒井力 講義草案	151
庄司直人 内灘村長よ	58	61	無署名 編集あとがき	151
谷村康子 夜鷹そば	58	59		
かわい・ゆりこ すもも	59	60		

四巻十一号（通巻三十六号）、表紙「国鉄文学特集号」「11・12合併号」本文148頁

昭和二十八年十二月一日発行、定価一〇〇円（送料八円）

滝平二郎 表紙

海老原、山崎郷他 カット

無署名 目次

滝平二郎 目次カット

人民文学社 『人民文学』の新らしい出発のために

無署名 新年号（創刊号）予告

田所泉 出廷拒否

無署名 全国詩活動家会議へ 十一月二八・二九日

形屋政美 無駄弾

田島啓二郎 世路

今井朝二 稲の穂のそよぎのように

小熊忠二 食台とふさえ

岡亮太郎 この大会が

中田久敏 夜の鉄橋

大沢盈夫 荷扱手のうた

岩上順一 労働者文学の現状と課題——国鉄の文学活動から——

石原青竜刀選 川柳

足柄定之 鉄路の響き（第七回）

茅盾、宮崎ひろし、加藤平八、宇田礼訳 新らしい現実と新らしい任務 中国文学工作者第二回代表大会における報告

竹内景助 無実の真実を訴える

木下順二、編集部文責 松川事件と私達の仕事

阿部市次 お母さん

本田昇 陽は高く明るく

きだ・かおる 江馬修の「山の民」について——とくに第一部

・第二部の意味——

杉浦明平 農民小説の新しい可能性

大竹博吉 栗林農夫の「ヤロビの谷間に」について

無署名 日本文学学校開校のおしらせ

松本鋼一 読者だより

山岸外史 樋口一葉 名作講座（2）

日本近代文学史研究、草部典一、湯地美佐子、島田福子担当

日本の近代文学史 VIII

（U）、（竹） 編集あとがき

116 102
〃 〃
117 11475 74 66
〃 〃 〃
101 74 7364 63 62 61 60 50 42 41
〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
65 64 63 62 61 59 59 41148 141
〃 〃
148 147134 133 132 130 129 125
〃 〃 〃 〃 〃 〃
140 133 132 130 129122 120 118
〃 〃 〃
124 121 119

人名・団体名索引(姓の五十音順)

- あいくに・わへい(わへい) 2・9、
 2・10、2・11、3・3
 I 生 3・15
 相田百世木 2・4、2・8
 アイチン 青 4・2
 あいはら・きよし 2・1
 青木 覈^{アキラ} 4・7
 青木修三 3・7
 青倉人士 2・6
 青森労働者文学研究会 2・5、2・11
 青山光二 4・2
 あかい・いさむ 3・14
 赤石達也 2・10
 あかい・すむ 2・11
 赤岩栄 3・6
 赤形直吉 3・3
 赤木健介(A、伊豆公夫も見よ) 1・1、
 2・8、2・10、2・11、3・15、3・4、
 3・6、3・7、3・8、3・12、4・2、
 4・4、4・6、4・8
 赤城さかえ 4・4
 あかぎ・しげお 4・6
 あかしごろう 4・1、4・6
- あかま かつみ 4・4
 赤松俊子 4・8
 赤松まり 4・8
 秋田雨雀 2・5、3・6、4・4
 赤馬吉直 3・14
 朝香進一 2・11、3・5、3・8
 浅野 2・4
 あさはら・こうじ 3・11
 足柄定之 4・5、4・6、4・7、4・8、
 4・9、4・10、4・11
 芦田弘 4・7
 葦百合子 2・8
 東 2・7
 東竹雄(東竹男)(東、竹も見よ)
 3・14、3・12、4・10
 東八郎 3・5、3・6
 熱田五郎 2・9、3・7、4・3、4・4
 姉崎哲夫 4・6
 マーチン・アブザグ 4・4
 阿部市次 2・8、3・14、4・11
 安部公房 3・3、3・5、3・10、3・12、
 4・2、4・4、4・9
 阿部知二 4・5
 阿部文男 3・11
- 天野一夫 3・5
 天野一也 3・7
 荒井勇(あらい・いさむ) 3・3、3・6、
 4・5
 ルイ・アラゴン 3・9、4・7
 荒正人 2・5、3・9
 安信サツエ 2・7
 安東次男 3・14、3・12、4・3、4・4、
 4・7、4・9、4・10
 安藤彦太郎 3・11
 アントーノフ 2・10
 飯島俊一 4・3、4・9
 池田誠治郎 4・1
 池田竜雄 4・7
 池田虎之助 3・5
 池田久子 3・8
 居坂 2・4
 エム・イサコフスキー 2・7
 サラ・イシアントウラエワ 2・3
 いしい・こう 3・10
 石井藤子 2・6、2・7、3・5、3・6
 石垣りん子 4・2
 石川文子 4・1
 石川達三 2・10

石川冬子	3・12	磯武平	3・14	井上満	3・15
石川涌(石川湧)	2・11、4・1	磯村英樹	3・11	井之川巨	4・2
石黒米次郎	2・9、3・14、3・7、 3・11、4・4	伊知井幸三	2・3	猪野謙二	3・10、4・6
石毛助次郎	2・1、2・5、2・10	市川楽三郎	2・5	猪野健治	4・3
石二	3・11	一読者	3・12	猪野千鶴	3・3
石塚友二	3・3	伊藤永之介	4・8	今井教子	4・9
いしだ・みちお	4・6	いとうかつえい	4・3	今井隆	2・7、3・5
石田仁	3・4、3・8	いとうけんきち	4・3	今井朝二	4・11
石谷良三	4・9	伊藤仁	4・5	今岡正三	2・6
石田幹雄	2・4、3・14、3・6	伊藤登美子	3・11	いむた・ささこ	3・15
石田ゆたか	4・2	伊藤一	3・8	入江つとむ	3・11
石野健吉	3・8	伊藤まき	4・9	岩井哲郎	3・12
石橋二郎	3・6	伊藤吉太郎	3・9、3・11、4・9	岩上順一	2・7、2・8、2・10、3・15、 3・3、3・5、3・7、3・9、3・10、 4・1、4・2、4・3、4・4、4・7、 4・9、4・10、4・11
石原青龍刀	3・4、3・6、3・11、 4・2、4・7、4・11	糸野つぎ子	3・6	岩倉政治	2・2、3・15、3・3、3・9、 3・10、4・1、4・3、4・9、4・10
石本かずえ	4・1	稲垣哲	2・11	岩崎昶	2・8、4・2
伊豆公夫(A、赤木健介も見よ)	2・7、 3・6、3・10、3・12	稲垣元博	4・6	いわさき・ちひろ	2・8
いずみきよし	2・11	乾孝	3・11	岩崎宏文	3・14
泉澤俊	4・5	いぬい・たかし	3・12	岩瀬日出雄	2・6、2・8
いげき・みちお	2・11、3・3、3・7、 4・1、4・8	乾弘	3・8	岩田清	3・4
いその・ありひで	4・2	井上正蔵	4・4	岩田ようこ	3・12
		井上知恵子	4・3		
		井上長三郎	4・7、4・9、4・10		
		井上俊夫	2・7、4・1、4・3、4・5		
		井上友一郎	3・3		

- 岩藤雪夫 3・5
 岩間正男 4・8
 因藤莊助 3・15
 上杉捨彦 4・2、4・3、4・4、4・5、
 4・6
 上田千之 2・2
 うえまつ・かずお 2・10
 植村諦 2・11
 鵜飼礼子 4・2
 宇佐美静治 4・9
 うさみ なおき 2・6、3・5
 氏家惇二 2・9
 潮田春苑 3・6
 牛越玉恵 1・2、2・1
 宇田川良 2・4
 宇田礼 3・7、3・11、4・2、4・11
 内田巖 3・3、3・4、4・3
 内灘村接收反対実行委員会 4・10
 内山完造 2・10、2・11、4・5
 内山賢次 2・10
 海野猛雄 4・10
 海野なるみ 4・2
 梅崎春生 3・7、3・10
 運送屋 3・6
- うんなん詩の会 2・11
 (A) (赤木健介、伊豆公夫も見よ)
 2・10、2・11、3・14、3・15、3・3、
 3・4、3・5、3・6、3・7
 江上つぎお 2・3
 江木タツミ 3・11
 江口渙 3・7
 江口棒一 2・11
 江口寛 3・11、4・8
 (S) 4・1
 江刷屋珪子 4・5
 枝法 4・4
 (H) 4・2、4・3、4・5、4・9
 江津萩枝 4・5
 江藤徹 4・2
 榎本春吉 3・5
 海老原 4・11
 海老原友忠 4・5、4・6、4・7、
 4・9、4・10
 (F) 2・2、2・3
 江馬修 (江馬生、江馬なかし、なかし)
 1・1、1・2、2・1、2・2、2・3、
 2・4、2・5、2・6、2・7、2・8、
 3・12、4・1、4・2、4・4、4・5、
- 4・7、4・9
 (M) 4・1、4・4、4・5、4・6、
 4・7、4・8
 M・I 3・15
 M生 2・2
 ポール・エリュアール 4・2
 イリヤ・エレンブルグ 4・3、4・10
 遠藤てるよ 3・10
 おいかわ とおる (及川とおる) 2・5、
 2・11、3・14、4・1
 近江幸正 2・5
 大井 2・4
 O・S生 2・7
 大岡昇平 4・8
 大木石子 3・5
 大木清一 3・3
 大阪操 4・4
 大沢三太 3・9
 大沢盈夫 4・11
 大島博光 4・2
 おおせき・こういち 2・5
 大逸敬二郎 2・6
 大竹直子 4・3
 おおたけ・ひろきち (大竹博吉) 2・1、

- 4・11
 大田順治 3・8
 大田省次 2・8
 大谷竹雄（大谷竹山） 3・8、4・4、4・8
 大塚敬三 4・7
 大津詩人集団 3・14
 鳳真治 3・10
 ヨーコ・オートリ 3・10
 大野加代 3・8
 大野碌 3・4、3・5、3・6、3・7、3・8、3・12、4・1、4・3、4・4、4・5、4・7、4・9、4・10
 大野碌郎 3・14
 大場進 2・3
 大原三郎 4・6
 大間信一 4・7
 大牟田風流グループ 3・4、3・5
 大山郁夫 3・4
 大山みよ子 2・8
 岡崎ふゆ子 2・3
 岡田一夫 3・14
 岡田よし子 4・3
 岡田芳彦 3・6
 岡野敬二 4・9
 オカノ・ケン 3・14
 岡本重吉 2・5、3・4、3・7
 岡本潤 4・2、4・4
 岡本勉 3・11
 岡本俊夫 3・3
 岡亮太郎 3・10、4・2、4・3、4・4、4・11
 小川宇一 2・9
 小川銑 3・8、3・9
 沖田一男 4・6
 荻原花子 4・2
 小口一郎 3・7、4・3、4・4
 小熊忠二 4・9、4・11
 長田時子 4・3
 長部舜二郎（黒井千次） 3・8、4・4
 小澤清 3・4、3・6、3・14
 押仁太 2・2、2・4、2・6、2・10
 オストロフスキイ 2・1
 小関茂 3・12
 小田切秀雄 4・4
 小野英 4・3、4・4
 小野十三郎 2・11、3・3、4・2
 小野友吉 3・12
 小野弘 2・7
 小場瀬卓三 2・10、3・3、4・8
 高玉宝 4・1
 化学太郎 4・1
 加賀耿二 2・6、3・14
 加川治良 4・1
 郭沫若 2・1、2・9、3・10
 影山啓 3・15
 加古里子 4・4、4・5
 香椎敏衛 3・5、3・8、3・10、4・4
 かしはら・かずを 2・5
 加島重作 4・3
 柏木源蔵 3・5
 鹿地亘 1・2、2・3、4・1、4・4、4・9
 柏原知廣 4・5
 春日正一 2・5、2・6、2・7、3・15、3・3、3・6
 片倉照男 3・7
 片野潔 4・6
 片羽登呂平（方羽登呂平） 2・2、3・14、4・2、4・9、4・10
 形屋政美 4・11
 勝谷ふきお 2・2

- 加藤朝吉 2・4
 加藤謙三 2・10
 加藤三佐 2・8
 (加藤) 楸邨 2・8
 加藤平八 4・7、4・10、4・11
 かとうよしこ 4・3
 加藤佳郎 3・10
 金井広 4・6
 神奈川県住吉小学校二年一組生徒 3・15
 金親清 2・5、3・14、3・4、3・5、
 3・6、3・7、3・9、4・8、4・10
 金子光晴 2・10
 金田明夫 2・9、4・3、4・7
 かのとおる 4・4
 神近市子 3・3
 神山彰一 3・10、3・11、4・1、4・4
 神老 3・3
 亀井勝一郎 2・11
 唐木田明雄 3・15
 烏徹 2・10
 かわい・ゆりこ 4・10
 河合好子 2・5
 川久保正博 3・15
 川崎隆志 2・2
 河尻隆次 4・4
 河田良三 3・6
 川野 4・10
 川原治 2・5
 河原一枝 2・11
 河村まさ子 3・8
 河原崎長十郎 1・2、2・5、3・3
 甘文芳 2・9
 菊池謙一 4・1、4・10
 きくち さかり 2・7
 木島始 3・15、4・1、4・2、4・4
 貴司山治 3・4
 木曾彌市 3・12、4・6
 北奥三郎 2・6
 きだ・かおる 4・11
 北民彦 3・7
 北輝男 4・1
 北原れい 4・1、4・10
 木下順二 3・8、4・11
 木原速夫 4・4
 キム・サング・オ 4・6
 キム・ジヨギユ 4・6
 キムラ・キイチ 3・14
 木村莊十二 4・6
 木村浩 2・10
 木村蓆子 4・3
 ロマン・キム 1・1
 京大文学サークル 3・14
 共同印刷労組人民文学友の会 2・5
 京都詩文学作家集団 2・11
 許南麒 2・7、2・9、2・11、3・3、
 3・8、3・9、3・10、4・2、4・6
 金敬在 2・9
 ただし・きんだ 4・5
 近代日本文学研究会(日本近代文学史
 研究会を見よ)
 金哲 2・8
 金龍楫(金就楫) 3・9、4・2
 くきもとたけひこ 4・8
 くさか・よしすけ 2・10
 草野心平 4・2
 草部典一 4・1、4・5、4・8、4・11
 工藤武雄 2・5
 久野和 4・2
 久保栄 3・3
 久保田正一 4・7
 窪田節次郎 3・5
 久保田正文 3・3

- 熊王徳平 3・11
 熊本再春荘人民文学友の会 2・11
 久米宏一 2・10
 倉石武四郎 2・11
 クリーニング屋 3・6
 栗栖継 1・1、1・2、2・1、3・7
 栗林農夫 3・12
 呉隆 2・9、3・4、4・4
 黒井千次(長部舜二郎を見よ)
 黒井力 3・12、4・10
 黒崎桃吉 2・2
 黒島們 3・6
 黒須童明 4・6
 黒田喜夫 4・5
 黒谷流二 3・15
 桑島信一 2・10
 桑原武 2・11
 桑原宏 3・7
 くわむら・こう 4・2
 群馬勤労者集団 2・11、4・10
 圭二 2・7
 (K) 3・10、3・11、3・12、4・5
 K・I生 2・7
 権敬澤 2・10
- 「現在」の会 4・10
 小泉みち子 2・10
 甲吉 3・11
 高原詩の会 3・3
 洪荒 2・6
 小内原文雄 3・9、4・2
 洪寧 3・6
 紅野敏郎 4・7
 こうの・わたる 2・10
 コージン 3・3
 マイケル・ゴールド 1・2
 国際写真通信提供 3・8
 古元 2・10
 小島悦子 3・15
 小島進 2・6、3・4
 小島美代子 4・8
 小溪住久 4・9、4・10
 ごとう・たかお 4・9
 後藤洋 4・4
 後藤料光 2・9
 こばやし じつや 2・8
 こばやし・つねお 2・3、4・3、
 4・4
 小林哲平 2・2
- 小林勝 3・12、4・1、4・4、4・7
 小牧近江 2・10、3・3
 小松清 2・10
 小松原徹 4・3
 小松三千夫 2・6、2・7、2・9、
 3・3
 呉林俊 4・6
 近藤東 2・11
 近藤アツ子 3・6
 近藤篤子 4・5
 近藤汎 4・4
 (サ)(サカイ、サカイ・トクゾーも見
 よ) 2・8、2・10、2・11、3・15、
 3・3、3・5
 サークル誌をよむ会 4・8、4・10
 西郷竹彦 2・5
 西郷信綱 3・10、4・7
 齋藤秋男 2・10、3・3
 齋藤あつ子 4・8
 齋藤和子 4・8
 齋藤繁子 2・8
 齋藤利雄 3・6、4・5
 齋藤千(さいとう ゆき) 2・3、2・4、
 2・6、2・7、2・8、2・10、3・6、

3・9	齋藤隆介 3・4、4・4	さきのかずこ 3・9	沢まや子 2・8、4・10
在日朝鮮文学会 2・9	さきの・もりあき 3・9	三国一 3・5、3・9	
佐伯 2・4	櫻井誠 4・5	三太 3・8	
佐伯良夫(さえき よしお) 1・2、	桜井陽司 3・5、3・7、4・1、4・4、	三町半左 3・6、3・7、3・9	
2・1、2・5	4・6	G・K生 2・9	
三枝ともみ 3・15	サクラサワ・ユキカズ 4・4	(J) 4・1	
さかい 4・10	桜田良則 4・5	塩川潔 3・5、4・4、4・10	
サカイ(サ、サカイ・トクゾーも見よ)	佐々木彰 3・15	志賀智之 4・8	
2・2、3・10、4・10	佐々木忠 4・4、4・10	しげる・あさむら 4・5	
酒井真右 2・2、2・4、2・10、3・5、	ささ すすむ 2・8、2・11	穴戸弥生 2・3、2・11	
4・10	佐藤和男 4・4、4・5、4・6	じつかわ・すすむ 2・4	
サカイ テルコ 2・10	佐藤久良子 3・8	失名子 3・3	
サカイ・トクゾー(サ、サカイも見よ)	佐藤修一 2・5	信夫澄子 4・6	
1・1、1・2、2・1、2・2、2・5、	佐藤代治 2・4、2・8	柴崎公三郎 4・4	
2・6、2・9、2・10、2・11、3・15、	佐藤精也 4・8	柴田一彦 3・8	
3・3、3・4、3・5、3・6、4・2、	佐藤忠良 1・1、1・2、2・1、2・2、	柴田昭司 4・8	
4・4、4・5、4・6、4・7、4・9	2・3、2・4、2・5、2・6、2・7、	柴田昭三 2・3	
境野みち子 4・2	4・5、4・8	柴田利夫 3・14	
さかいばら いつお 2・5	さとう・はじめ 2・8	柴山康夫 4・5	
さかさき つねろう 3・11	佐藤一 3・3	島俊一 3・8	
坂本忠 3・14	佐藤文雄 3・8	島田ちかし 4・5	
坂本俊雄 2・4、2・9	佐山済 2・10	島田福子 4・11	
相良春子 2・6	ジャン・ポール・サルトル 4・10	島田政雄(島田) 1・1、2・1、2・2、	
	澤田正夫 2・11	2・3、2・4、2・5、2・9、2・10、	

2・11、3・15、4・2、4・3、4・4、 4・8	人民文学盛岡友の会 2・11	須藤伸一 4・2、4・5、4・6、4・7
しまもと ただお 2・11	新村猛 3・4	須間純 3・10
清水幾太郎 3・6	菅原克己 4・8	住谷春也 3・6
清水邦生 3・11	杉浦三郎 4・8	角俊広 2・9
事務局 2・11、3・5、3・6	杉浦明平 3・11、4・4、4・9、4・11	須山廣志 3・14
事務局財政部 3・4	杉伸子 4・10	駿河三郎 3・7
志村幸子 2・4	杉原征价 3・15	諏訪彌佐吉 2・10
下村敏夫 4・9	杉本二郎 3・5	孫 ^{スリ} 犁 2・3
(社一同) 4・9	鈴木禧八 4・5	清野進 4・3
車楽生 4・9	鈴木桂子 4・8	清野正秋 4・7
上海文学芸術界連合会 2・10	鈴木賢二(スズキ・ケンジ) 2・1、 2・5、3・15、3・3、3・9、3・10、 3・11、4・1、4・4、4・6、4・7	アンナ・ゼーガース 4・3
楸邨(加藤楸邨を見よ)	鈴木茂正 3・4	関英一 3・8
庄司直人 4・10	鈴木信 2・8、2・9、2・10、3・15、 4・1	関義 4・7
シヨロホフ 4・7	鈴木西州 4・6、4・7	瀬木富夫 2・4、3・3
植字工 3・6	鈴木盛義 4・6	関根弘 4・2
白井健三郎 4・4	イ・スターリン 3・15、3・11	関鑑子 2・5
新岩手詩人集団 2・11	ステパン・シチパチョフ 3・15	瀬藤祝 2・3
新郷宏 3・8	首藤瓢々 3・15	創作研究会 4・4
真谷幸介 3・5、3・12	ヤロスラフ・シユポールタ 2・10	相馬よし子 4・1、4・3
陣ノ内鎮 3・5	すどう・かずお 3・15	草明 2・6
人民文学大阪友の会 3・9	須藤五郎 3・9	其井豊 2・6、2・7、2・10
「人民文学」詩委員会 3・12、4・1、 4・2、4・3、4・6		祖父江貞子 4・7
		レオ ^(ママ) ラルド ダヴィンチ 3・4
		高市実 3・12

- 高沖陽造 4・4
 高木正一 4・10
 高木伸 4・5
 タクラ・テル 1・1、2・1、2・5、
 2・9
 「高崎五万石」製作委員会 3・5
 隆 3・9
 高島青鐘 2・11、4・5
 高島鉄哉 3・3
 高島洋 4・2
 高瀬俊介 4・5、4・9
 高田糸子 3・8
 高萩歌人集団 2・11
 高橋暁樹 1・1
 高橋イツ子 3・7
 たかはし・しんいち 2・11
 高橋慎一 4・5
 高橋新治 3・15
 高橋星河 2・5、2・8、2・11、3・4
 高橋トヨ 4・5
 高橋正夫 3・7
 高橋元弘 3・9、3・10
 高橋義孝 4・4
 隆村孝平 2・11
 滝崎安之助 3・6、3・8、3・10、
 4・7、4・8
 多喜二研究会 4・2
 瀧修一 4・9
 滝平二郎 2・5、2・7、2・8、2・10、
 2・11、3・14、3・4、4・1、4・6、
 4・8、4・9、4・10、4・11
 (竹)(東、東竹雄も見よ) 4・3、
 4・4、4・11
 竹内景助 4・11
 竹内好 2・5、2・10、4・4
 武田泰淳 4・1、4・5
 武田久 2・10、3・4、3・9、4・8
 たけだ やすこ 4・8
 竹田葉介 2・10
 田島啓二郎 4・11
 多田洋一 2・3、3・14、3・15
 伊達得夫 4・8
 田所泉 4・11
 田中修三 3・3、3・10
 田中政雄 1・2
 田中政子 3・8
 田中マサル 3・15
 たなはし・一じ 2・1
 たなべちさこ 4・3
 谷川みどり 4・2
 谷新助 4・7
 谷村康子 4・10
 田沼肇 4・7、4・8、4・9
 タバタ テル 3・7
 玉城肇 3・3、4・4
 玉木葉月 2・3、2・10
 玉城実 4・6
 玉城素 2・3
 民庄太郎 3・11
 田宮虎彦 3・8
 田村英一 2・9
 タムラ・ミノル 4・5
 丹田一 2・7
 丹治芳郎 3・10
 淡徳三郎 2・5、2・10、3・8、4・4
 チェン・イエンチャオ 2・5
 中華全国文学芸術界連合会 3・10
 中国文学研究会 2・4
 趙基天 2・9
 趙樹理 2・1、2・2
 曹 良 奎 4・6、4・7
 千代田詩人集団 4・2

陳孝敬	3・9	土井道子	2・7、2・9	モーリス・トレーズ	4・7
秦 兆 陽	4・10	どい・よしのぶ	2・4、2・7、3・15、	吞	3・9
つぎお	4・5	3・4、4・4		吞木呆天	3・9
津吉	4・6	東京朝鮮人中学校第三学年自治会一同		屯子	3・9
津田孝	3・5	2・6		内藤三歳子	2・10
ひろし・つだ	2・7	東京南部文芸工作者集団	3・12	長尾修	4・9
土屋正子	4・5	唐至	2・3	中垣虎児郎	2・3
津々美喜一郎	3・12	ミハイル・ドゥージン	2・10	長崎S生	3・3
津々美真一郎	3・8	東大文学研究会	3・5	なかし(江馬修を見よ)	
堤真砂	4・3	エディト・トーマ	3・14	中島健蔵	3・4
椿正康	3・10、4・3	遠山茂樹	3・11	中蘭英助	4・3
坪野哲久	2・10	徳永直	2・5、2・9、2・10、3・15、	長田志郎	2・10
積田經士	4・9	3・3、3・4、3・6、3・7、3・10、		中谷泰	4・2、4・7
つやまけいこ	3・3	4・1、4・3、4・4、4・5、4・6、		中田久敏	4・11
T 2・6		4・9、4・10		中田ひろ子	4・10
T・H生	2・9	徳永富子	2・4	中田良克	2・7
鄭泰裕	3・12	徳永富士子	2・4	中西次郎	4・7、4・8
丁 玲	2・7	戸塚署三十二番	4・3	中野昭	3・3
出崎郷(山崎郷を見よ)		富岡隆	3・5	中野秀人	2・10、3・9、4・2、4・4
手島千恵子	4・9	トムスキー	2・8	仲野谷清	3・14
寺田貢	4・10	豊田正子(正子)	1・1、1・2、2・1、	長畑喜一	4・5
寺西邦雄	3・3	2・2、2・3、2・4、2・5、2・6、		中原淳吉	2・8、3・9
輝旗信治	3・11	2・7、2・8		中原信吉	2・8
戸石泰一	4・2	エフゲニー・ドルマトフスキー	2・8	中原保男	3・4、3・5、3・6、3・7、

- 4・8
 長淵芳麿 3・8
 中村朗 4・9
 中村梅之助 3・8
 中村翫右衛門(中村翫右エ門) 2・8、
 3・15、3・8、3・11、4・3
 中村信司 3・10、4・3
 中村宏 4・6
 中門英幸 2・11
 中山義秀 4・5
 中山五郎 2・1、2・2
 中山正 4・6、4・7
 中山ユリ 4・7
 中山亮一 3・11
 長与善郎 2・10
 名古屋学生救援会 3・7
 夏川令三 3・7
 某 2・6
 鳴木民夫 2・3、4・5
 なわみちお 4・2
 新潟詩のなかまの会 2・11
 新島繁 2・5、2・11、3・9、3・10、
 3・12、4・4、4・8
 新居広治 1・2、2・2、2・5、2・11、
 昇曙夢 2・9
 野田克信 4・8
 ノサカ・ハタエ 3・3
 野口肇 3・10
 野木たかし 3・8
 能智修弥 3・3
 能智愛子 3・11、3・14、4・6
 パプロ・ネルーダ 3・7
 アンデルセン・ネクセ 4・9
 根本篤 2・11
 根岸忠 3・3
 日本近代文学史研究会(近代日本文学
 研究会) 4・1、4・2、4・3、4・5、
 4・7、4・8、4・10、4・11
 二宮キク 4・8
 日中友好協会提供 3・8
 西山勝己 4・1
 西山梅雄 4・1
 西村玲子 3・8
 西杉夫 4・2、4・9
 西尾章 3・6
 西尾章二 2・10、4・4
 野間宏 2・2、2・3、2・4、2・5、
 2・6、2・7、2・10、3・15、3・6、
 3・9、3・10、3・11、4・2、4・3、
 4・4、4・5、4・8、4・9、4・10
 野村欣治 4・7
 野村忠 3・6
 のり子 4・5
 芳賀通信 2・11
 萩村繁 4・6
 迫樹 3・14
 橋本英吉 3・3
 橋本勝三郎 2・3
 橋本公成 3・15
 橋本夢道 3・3
 長谷川匡史 4・3
 長谷川義二 3・7
 畑中俊平 2・6
 八目女十 3・11
 服部之総 4・5
 花岡次郎(花岡) 3・10、3・12、4・4、
 4・5、4・6、4・7、4・8
 花園次郎 4・1
 浜口国雄 3・12
 浜崎二雄 4・1、4・3

- 浜田初廣 2・3
 はやし・かずお 3・9、4・4、4・7
 林克也 4・10
 林二郎 3・5
 林野滋樹 4・7
 林尚男 3・11、3・12
 林文雄 3・9
 林稔 3・15
 原修 3・5
 原謙太郎 3・14
 原武男 2・1
 原田利光 3・8
 春川鉄男 2・6、2・8、2・11、4・2、
 4・3、4・4
 半田義之 2・1、3・10、4・4
 ひがし絋平 3・8
 ピカソ 2・5、2・9、4・7、4・10
 樋口武和 3・9、3・12、4・4
 ヒクメット 1・2、2・3
 土方鉄 3・6
 ひつとばし・すすむ(一橋進) 3・15、
 4・7
 ひの・まさし 3・7
 ひやまえたろう 4・1
- ひら・しんじ 2・5
 平中忠信 2・1
 平野謙 3・3
 平野幸男 4・7
 比良信治 4・9
 平山二郎 3・15
 V・ヒルスカ 3・7
 広江天痴人 3・15
 広島E生 3・3
 広島平和祭典準備会 2・8
 広末保 3・3、3・11、4・4、4・5
 廣田耕作 2・10
 ひろみ 4・5
 貧男 3・9
 草明 2・2
 ア・ファデーエフ 2・6
 フージュロン 4・7
 深井三木夫 3・7
 深尾須磨子 3・3、3・6、4・2
 深川宗俊 2・8、3・3、3・8
 福島要一 2・4、2・5、3・4、3・9
 福田一郎 4・9
 福田穂 2・2、2・6、2・11、3・14
 福田恒太 4・7
- 福田久道 4・4
 福田律郎 4・2、4・3
 福原真志 2・4
 袋一平 2・3、2・5、2・6
 藤井透 4・3、4・4
 藤尾龍四郎 3・5、3・6、3・7、
 3・8、3・10、3・12、4・9
 藤川健夫 3・11、4・2、4・3
 ふじたたかお 4・5
 藤田孝美 2・3、3・6
 藤塚三郎 4・6
 藤森成吉 1・1、1・2、2・1、2・2、
 2・3、2・4、2・5、2・6、2・8、
 2・10、3・14、3・15、3・3、3・4、
 3・6、3・7、3・10、4・3、4・4
 布施辰治 3・6
 淵田一久 2・10
 船越亨 4・6
 エフゲニー・プラリニコフ 2・5
 ロバート・フリードマン 1・2
 アンドレ・ブリュムセル 1・2
 古川明子 3・4
 古川宏 3・9、3・12、4・7
 古川稔 4・9

- 古澤太穂 2・8、2・10、3・15、3・3、
3・5、3・6、3・7、3・8、3・10、
3・11、4・1、4・2、4・4
- 古野雅美 3・11
- 古林尚 4・1
- 古谷綱武 4・4
- 文芸報社 文芸報編集委員会 2・2
- 文章五 3・11
- 「平和のうたごえ」編集委員会 4・1
- セルゲイ・ペトロフ 2・8
- レエジイ・ベルジュロン 4・2
- 黄^{ホアン}谷^{クウ}柳^{リウ} 4・3
- 北條さなえ 2・10、4・4、4・9
- ほうじょ てるお 4・1
- 朴元俊 2・11、4・4、4・6
- 朴準熙 3・12
- 星野虎夫 3・4
- 星野まもる 2・4
- 細井勇 4・1
- 細川俊 3・14
- 北海道全通増郵文学会 袖木衆三 2・11
- 堀田善衛 3・6
- 堀内春吉 2・9
- 本郷一郎 4・8
- 本郷新 2・1、2・2、2・6、4・6、
4・8
- 本田喜代治 3・3
- 本多秋五 4・4
- ほんだ・たつんど 3・5
- 本田昇(ほんだ・のぼる) 4・3、4・7、
4・11
- 本田実 4・2
- 本田嘉博^{マフアン} 4・8
- 馬^マ凡^{ファン}陀^ト 2・4
- 麥桿 1・1、2・5
- 前芝確三 2・10
- 前田喜美子 3・5
- まえだ こおいち 3・10
- 前田芳雄^{マオトン} 4・6
- 茅^{マオ}盾^{トン} 4・10、4・11
- マフムド・マカル 1・1、1・2
- マキ・タカシ 3・4
- まき・あきら 3・4
- まき・かずひろ 2・7
- 牧健介 3・6
- 牧浩平 2・7、2・8
- 真木尚二 2・8
- 槇新太郎 4・1
- 牧清一 3・3
- まき・ひろし 2・11
- 真崎一男 3・5
- 柁木恭介^{ひろし} 4・9
- 正木^{ひろし} 4・4
- 正子(豊田正子を見よ)
- 増子正司 3・12
- ましま・てつじ 3・11
- 升内義夫 4・3
- 増山太助 1・2
- 真知子 3・8
- 松江大衆診療所一員 3・12
- 松川詩人集団 2・11
- 松川晴二 3・6
- 松川哲雄 4・10
- 松木良雄 2・2
- まつしま・えいいち(松島栄一) 3・9、
3・14、4・5
- まつだ・あきら 3・7
- 松田武 2・9
- 松田解子 1・2、2・5、2・9、2・10、
2・11、3・15、3・4、3・5、3・6、
3・7、3・10、4・1、4・3、4・4、
4・5、4・10

松原健二 3・6、4・5

松村一人 2・10

松本鋼一 3・14、4・11

松本二郎 2・11

松本新八郎 2・11、4・5

松本亨 3・4

松本正幸 3・4、3・7

松山映 4・8

松山繁 3・9、4・1、4・3

まつやま・ふみお 3・4

真鍋呉夫 4・2、4・5、4・6、4・7、

4・9、4・10

馬烽 4・7

マヤコーフスキー 3・5

丸木位里 3・6、4・8

丸山三郎 3・15

丸山静 4・9

まるやま・てるお 3・3

マレンコフ 4・7

三浦郁雄 3・6

三木進一郎 4・9

三木比呂志 4・1

水上正弘 3・3

みずさわ ひろし 3・11

水谷護 2・3

水野繁 4・4

箕田源二郎(みたげんじろう) 3・3、

3・5、3・6、3・7、3・8、3・9、

3・10、4・1、4・3、4・4、4・5、

4・6、4・10

三田署 七番 4・5

道家忠道 4・6

箕作秋吉 3・15

南昌三 3・3

南沼夫 3・4

セルゲイ・ミハルコフ 2・10

壬生照順 4・4

宮木春也 3・10

宮崎ひろし 3・7、3・11、4・1、

4・10、4・11

宮下森 4・7

宮乃宇良夫 3・3、3・6、3・15

宮部八重 4・10

宮脇千秋 2・7

三好一 2・2

三輪民吉 3・5

向山宏 3・3

無名氏 3・11

村石玉恵 2・5、3・15

村上十吉 4・8

村上草太郎 3・14

むらかみ・たかを 2・3

村田幸夫 4・9

むらた・ひろし 3・5

むらやま・たかし 3・7

村山学 3・5

メーデー被告荒川署四四番 3・11

モイセイエンコ 2・5

元田斗志 3・6

もとね・しろろ 3・12

盛岡ペンと自由グループ 4・8

森武郎 4・1

森春夫 4・10

矢島昇一 2・2

ヤシロ・コイチ 4・4

矢代東村 2・10、3・14、3・15

安田幾代 4・5

安豊定子 3・12

安永守 4・6

矢田妙子 3・15

柳田謙十郎 4・4

柳町京平 4・7

柳瀬正三	4 6	山本洋	4 8	吉田太郎	4 4
谷野耿太郎	4 7	山本平八郎	2 11	吉田豊	4 9
山川亨(山川亮)	3 7、3 10	山本又男	1 1、2 2	ヨシダ・ヨシエ	4 8
山岸外史	3 3、3 5、3 6、3 8、	山本洋助	3 3	吉仲功	4 6
4 4、4 10、4 11		(U)	4 1、4 2、4 3、4 4、	吉成大志	2 7
山崎郷(出崎郷)	3 4、3 6、3 8、	4 5、4 6、4 8、4 9、4 11		吉村金之助	4 6
4 1、4 3、4 4、4 5、4 6、		ゆうき・かおる	2 11、4 7	吉原武安	2 10
4 7、4 10、4 11		湯川純	2 11	米田登	3 11
山崎達志	3 6	行方藤男	4 6	マーグリット・ライナー	4 2
山崎正和	2 8、3 15	袖木衆三	2 11	李殷直	4 6
山崎良一	4 5	湯地美佐子	4 11	李泰俊	3 12、4 4、4 6
山路隆司	3 15	由利左門	3 14、3 15	リ・ビヨンチョル	4 6
山代巴	4 3、4 4、4 6	養志	3 8	林 ^{リム} 和	3 3、4 2
山田順太郎	3 5	葉挺	2 2	柳貞姫	4 8
山田清三郎	3 3、3 8、4 5、	除村吉太郎	2 8、2 10、3 4、3 8、	林影	3 12
4 10		8、3 11、4 2、4 7、4 8		イー・ルヴォヴァ(イ・リヴォヴァ)	3 10、4 3
やまだとおる	4 5	横井源次郎	2 7	G・ルカツチ	4 5
山田真広	4 4	横田瑞穂	3 3	クロード・ロワ	4 10
山野五郎	3 14	吉井忠	1 1、1 2、2 5、2 8、	YYグループ	3 7
山野卓造	4 7	4 4、4 5		YY同人	3 9
山畑たけお	4 7	吉岡憲	1 2、2 2	若杉卓二	3 15
山原袈裟乃(山原けさの)	2 3、2 5、	吉澤和夫	4 3	わがつま・けいすけ	2 8、3 3
2 11		吉田嘉志雄	2 3、2 9	セルゲイ・ワシーリコフ	2 10
山本幸一	3 3	吉田治平	3 14		

渡辺兼雄	4・5
渡邊金司	4・5
渡邊淳	4・8
渡辺順三	2・5、2・11、3・3、3・4、
	3・5、3・6、3・7、3・8、3・9、
	3・10、3・11、4・1、4・2、4・4、
	4・7、4・8
亘理妙子	2・3
亘	3・9
わへい（あいくに・わへいを見よ）	